お客様とキタムラをつなぐコミュニケーション情報誌

フォトライフ 四季

カメラのキタムラ
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎045-476-0777
平成10年3月1日発行
季刊第24号
キタムラホームページ
http://www.kitamura.co.jp/
フォト ネットワーク
カメラのキタムラ®
vol.24
SPRING

特集 写真家・三好和義氏

風景に自分の気持ちを映し出し、「心の楽園」への旅を重ねる。

「折り紙」を撮る 末廣和子氏インタビュー
一枚の紙に命を与え、豊かな心のふれあいを表現したい。

日常風景ウォッチング 第三回
「路上観察」の達人 赤瀬川 原平氏インタビュー①

保存版 中判カメラ特集

上千本(かみせんぼん)。まさに日本一の桜の名所。夜明けを待ってシャッターを切る。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：CMフジノン125mm 絞り：f45 シャッタースピード：4秒 フィルム：プロビア 撮影地：奈良県吉野町 4月12日〈撮影〉三好和義氏

フォトライフ

四季

CONTENTS
Vol.24
SPRING

素桜神社の神代桜。何度も通ってやっと撮れた。巨木の貫禄。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：CMフジノン90mm　絞り：f22.5　シャッタースピード：1/8秒　フィルム：プロビア 撮影地:長野県長野市　5月〈撮影〉三好和義氏

特集　写真家・**三好和義氏**

風景に自分の気持ちを映し出し、「心の楽園」への旅を重ねる。 …… 2

キタムラがお薦めする「春の花」撮影ポイント …… 8

写真の楽しみ いっそう広がる　日常風景ウォッチング　第三回
「路上観察の達人」赤瀬川 原平氏① …… 10

THE フォトワールド⑫「折り紙」を撮る　**末廣和子氏インタビュー**
一枚の紙に命を与え、豊かな心のふれあいを表現したい。 …… 16

保存版　中判カメラ特集 …… 26

バックは和紙、鶴はありふれた両面折り紙を使用。そのため質感があまり強く出ないように、絞りを少々浅くした。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ100mm　絞り：f22　AEプラス1/2補正　フィルム：コニカLV200　カラー用ブルーランプ使用〈撮影〉末廣和子氏

連載記事

写真おもしろヒストリー⑯
初めて見せられた写真に、「息がかかると消える」と叱られた下岡蓮杖 …… 15

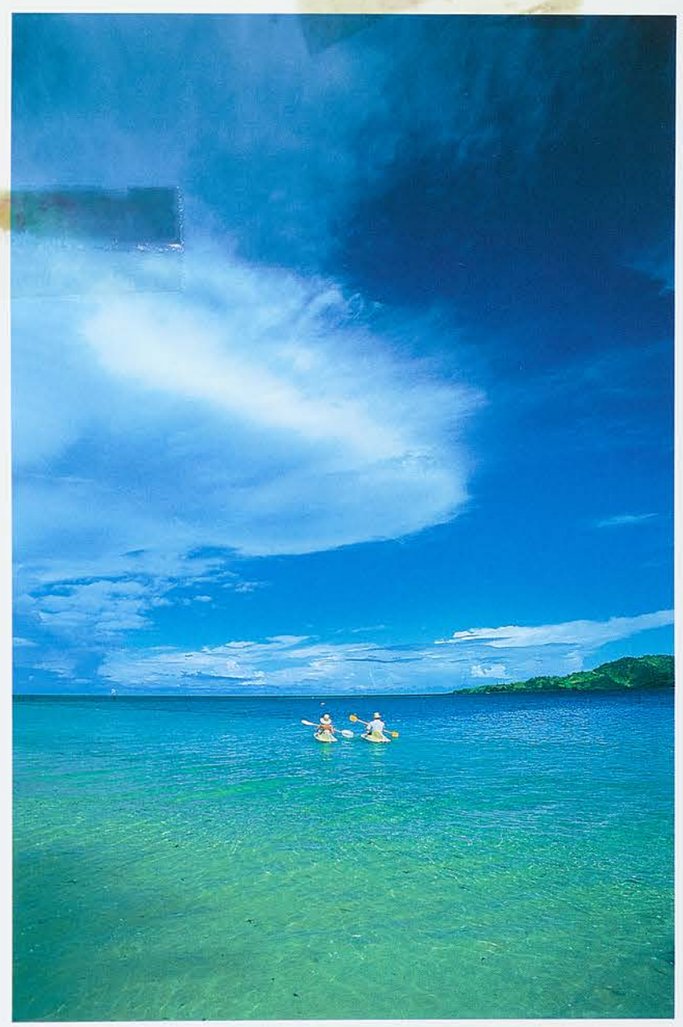
新・メーカー探訪　現代銘品カメラ列伝③
ミノルタα-807si編 …… 18

撮影便利メモ①
春の野山を歩く …… 20

第6回「全国秋の彩フォトコンテスト」入賞作品発表 …… 24
読者のページ　フォトライフ四季 ふれあい広場 …… 31
キタムラ・インフォメーション …… 32
プレゼントが当たる！ クロスワードパズル …… 32
編集後記 …… 32

MINOLTA

70th anniversary



無限に広がる映像イメージ、超広角［AFズーム20-35mm］誕生。

1本で広角20mm・24mm・28mm・35mmの4本のレンズをカバーする、超広角AFズーム20-35mmF3.5-4.5。高画質を実現する非球面レンズ。軽量・コンパクトな設計。人間の視覚ではけして到達し得ないワイド領域に、新しい映像世界を創造することの感動。深い被写界深度、パースペクティブを活かして主題を強調する超広角ならではの描写を手軽に愉しむことの快感。このレンズから生まれる広がりに充ちた世界は、撮る人のクリエイティブな欲求を刺激して止まない。無限の広がりを持つ映像のダイナミズム、今、ここに極まる。

AFズーム20-35mmF3.5-4.5仕様　●レンズ構成：11群13枚●画角（対角）：94°～63°●フォーカシング方式：フロントフォーカシング●最近接撮影距離：0.5m●最大撮影倍率：0.08倍（焦点距離35mm、撮影距離0.5m）●絞り羽根：8枚●フィルター径：72mm●フード：円形バヨネット式●大きさ：77.5（最大径）×69.5（長さ）mm●重さ：325g　希望小売価格（税別）¥77,000（フード・ケース付）

■詳しいカタログを差し上げます。（住所・氏名・年令・機種名記入）〒108-8608東京都港区高輪2-19-13NS高輪ビル ミノルタ販売株式会社 フォトライフ四季係 ●αシステムのお問い合わせフリーダイヤル 0120-493-881 ●お客様商品相談窓口 ☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641

深遠なるポテンシャル。
α-LENS

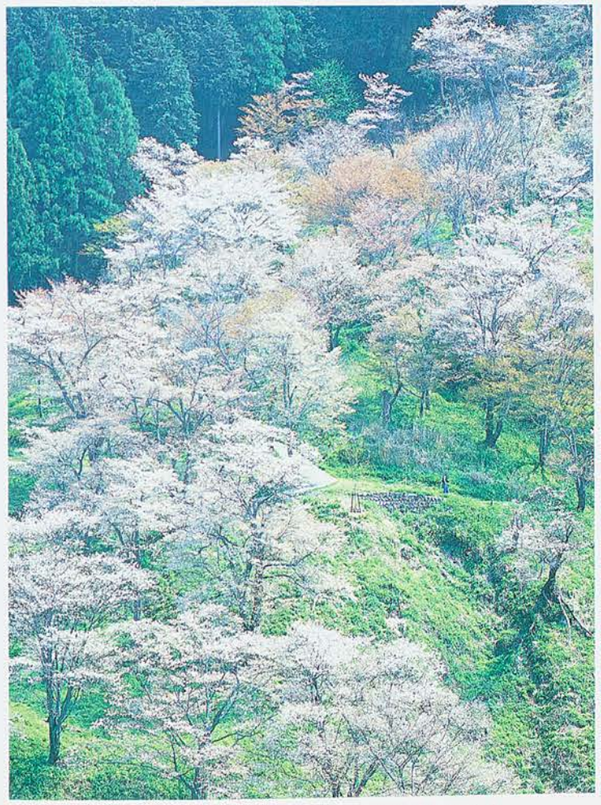
特集　写真家・三好和義氏

風景に自分の気持ちを映し出し、「心の楽園」への旅を重ねる。

カメラのキタムラ「全国春の花フォトコンテスト」で毎年審査をお願いしている三好和義先生は、南の島タヒチをはじめ「楽園」をテーマとした作品創りで知られる写真家。その後ヒマラヤやサハラ砂漠などにも撮影の場を広げ、つい最近では北極圏でのオーロラの撮影に挑むなど、世界各地で精力的な活動を続けておられます。また国内でも様々な土地を訪れては、桜をはじめとした「日本の楽園」にカメラを向ける三好先生にインタビューを行ない、旅を通して「楽園」を求め続ける「自身の撮影活動についてお話を伺いました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて三好氏の作品です。

吉野の桜。風に揺れるしだれ桜。絞りを開けてバックをぼかした。
■カメラ：ペンタックス645　レンズ：300mm　絞り：f5.6 AE　プラス1／2補正　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月12日



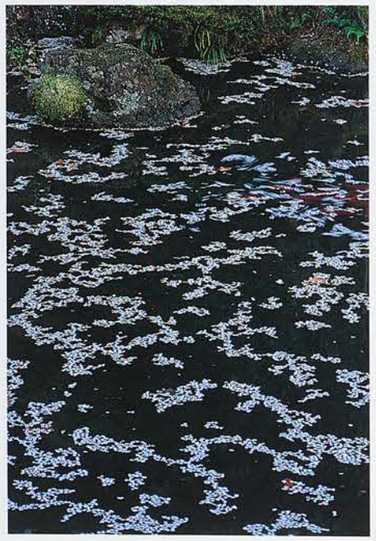
中千本。むかいの山を望遠レンズで切りとる。露出は少々明るめにした。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：フジノンT400mm　絞り：f32.5　シャッタースピード：1/4秒　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月12日

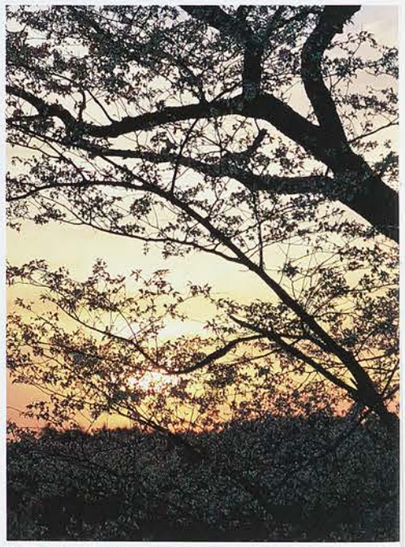
みよし　かずよし
1958年徳島生まれ。東海大学文学部卒業。86年木村伊兵衛賞、88年・94年は日本カメラ月例審査員を務める。写真集は『タヒチ伝説の楽園』『美しい日本の四季』『楽園の原点　オキナワ』（以上小学館）、『SAHARA!ー金の砂 銀の星』（文藝春秋）など多数。4月には『ぼくのふるさと阿波吉野川』（小学館）が出版される。

駒つなぎの桜。源義経が馬をつないだと伝えられる。見事な巨木。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：CMフジノン125mm　絞り：f32　シャッタースピード：1/2秒　フィルム：プロビア　撮影地：長野県阿智村　4月

吉野の桜。秀吉の花見の宴で有名な竹林院の庭で。
■カメラ：ペンタックス645　レンズ：300mm　絞り：f5.6 AE　プラス1／2補正　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月

吉野の桜。花いかだ。川面に散った花びらが動いていく。
■カメラ：ペンタックス645　レンズ：45-80mmズーム　絞り：f22 AE　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月





吉野の桜。夕暮れ時。枝ぶりをねらってシルエットに。
■カメラ：ペンタックス645　レンズ：45mm　絞り：f16 AE　プラス1補正　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月

5年、10年の歳月をかけて、満足のいく一枚をモノにする。

同じ撮影地に通い続けることで、ステップアップが可能となる。

——三好先生は「楽園」というテーマで長年にわたって撮影活動を続けておられますが、その中でご自身の「楽園」に対するお考えやとらえ方というのは、ずっと変わらないものなのでしょうか？

私も最初の頃は、見た目の美しさとかビジュアル的なものに「楽園」を見いだしていたのですが、最近はもっと精神的な部分で惹きつけられ、自分の気持ちが高まり癒されるような「心の楽園」を求めるように変わってきたのを感じています。例えば桜を撮りに出かけるという行為も精神的な充足を得るために行くわけで、いわばこれは私にとって「楽園」を探しに行く旅」なんです。そして、こうした被写体と自分の気持ちとをつないでくれるものが写真なんですよ。だから桜を撮りに行くなら、まず現地に問い合わせて開花状況を確認するとか、由緒ある名木だったら資料を入手してその由来を調べるといった下準備をしてから撮影地へ向かうことを、私は大切にしているんです。こうすることによって自分の気持ちが盛り上がるし、撮影のためのイメージも膨らんでくるんですよ。

——桜というのは撮影時期がごく限られているだけに、先生が手がけられるモチーフの中でも難しい題材なのではないでしょうか。

確かにそうですね。開花時期が短い上に色合いが微妙で、本当にいい色に咲いている時ってなかなかないんです。また、雨や風など周りの環境や天候にも左右されるし、そういう意味では本当にいい撮影条件に恵まれるのは、何年に一度といった感じです。

だからこうしたシャッターチャンスの少ないモチーフの場合は、必ずしも一度の撮影でベストな作品を撮ろうとせず、5年、10年といった期間をかけて、満足のいく一枚をモノにするという位の心構えも必要だと思います。私も今まで弘前や高山・角館・三春といった様々な撮影地で桜を撮ってきましたが、100%満足のいく撮影ができたと感じたことはまだ二度もありません。これらの桜にはぜひもう一度チャレンジしたいと思っています。

また技術的な問題でうまく撮れなかったのなら、その失敗をしっかりと覚えておけば次回の撮影に活かせるでしょう。最近はデータを記録できるカメラがありますから、絞り値とか補正のプラスマイナスとか、昔は自分の頭で覚えておかなければならなかったことが撮影後でも確認できますよね。だから「この時はこういう撮り方でうまくいかなかったから、次の時はもう一段プラスしてみよう」といったことができる。やはり一度失敗をして次のステップへ行くというのも、いい作品を撮るための大切なプロセスではないでしょうか。だから私の「桜を撮る」というテーマはまだまだこれからだと思うし、毎年春になると「今年こそは最高の一枚が撮れるのではないか」という期待感が、私を再び撮影地へと駆り立てるんですよ。

——いい写真を撮ろうと思ったら、「同じ場所に何回も通う」ということも大切なんですね。

初めてその地を訪れた時というのは、得てして珍しさだけでシャッターを押してしまいがちなんですが、それでは単なる観光客と同じだし、被写体に対して浅い見方しかしていないと思うんです。だけど何回もそこに通うことによって、自分の被写体を見る目も肥えてくるし、現地の人と知り合って話を聞いたりすれば、一層深いところまで見えてくる。

タヒチなどもこれまで10回以上行っていますが、そのたびに違った写真が撮れるんです。出ている雲の形や光の感じが変化するといったこともありますが、撮った写真を日本に帰って現像してみると、現場ではわからなかったいろいろなことに気づくんです。それで「次に行った時はこんな撮り方をしてみよう」という新たなイメージへとつながってゆく。それが非常に面白いし、自分の作品をさらにステップアップさせてくれるんですよ。

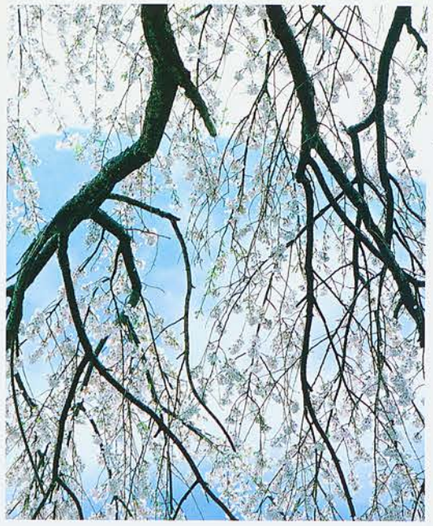
旅で得たものが蓄積されて、自分の中で何かが変わる。

——先生は「心の楽園」を求めて国内・国外を問わず様々な土地へ行かれているわけですが、やはり「旅をする」ということ自体に魅力や意義を感じていらっしゃるのでしょうか？

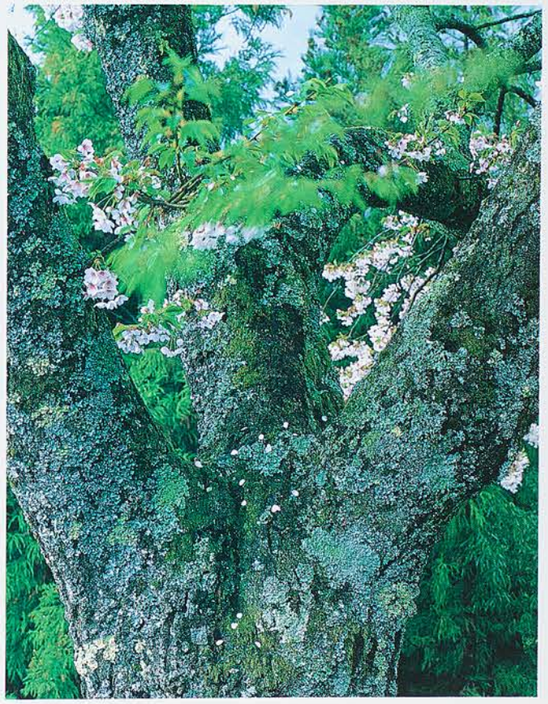
私は子供の頃から旅行が大好きでしたし、今でも「旅と写真とどちらが好きか」と聞かれたら迷うほどの旅好きです。やはり本や資料でしか見たことのなかったものが実体験できるわけですから確実に視野が広がるし、旅先で見聞きしたものが自分の中に蓄積されることで、行く前とは自分の中で何かが変わるんです。それが旅の面白さですね。

昨年の12月から今年の1月にかけて、北極圏のオーロラを撮りに行ってきたのですが、オーロラが出るのを待って、結局延べ1ヶ月も現地に滞在しました。やっときれいなオーロラが現れた時は、まさに今まで別世界にあったものが自分のモノになったという感じでした。今でも夢のようですけれど、そういう感覚ってやはり実際に体験してこそわかるものだと思います。また、この北極圏というの

賢誉寺の桜。バックの霧がみるみる晴れてゆく。あわててシャッターを押した。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：フジノンT400mm　絞り：f8　シャッタースピード：1／30秒　フィルム：プロビア　撮影地：岐阜県萩原町　5月



月見堂の桜。苔むした幹の質感を撮るのに、陽がかげるのを待った。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：CMフジノン300mm　絞り：f45　シャッタースピード：1秒　フィルム：プロビア　撮影地：長野県阿智町　5月

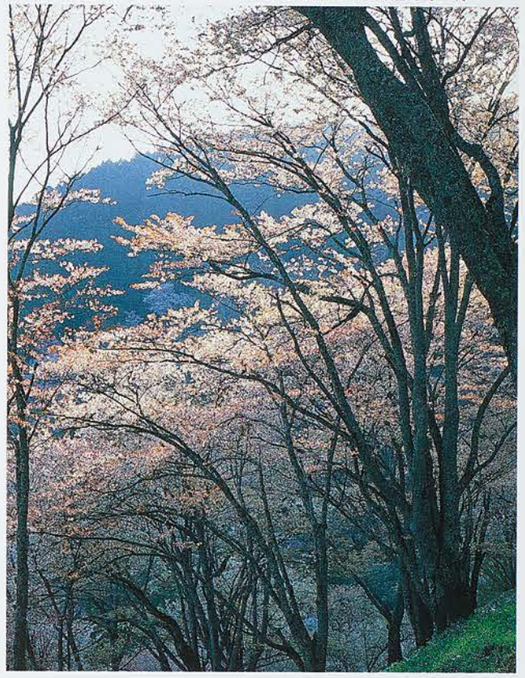


中千本。霧にかすむ。杉の配置に気をつかった。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：フジノンT400mm　絞り：f45　シャッタースピード：1秒　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月

素桜神社の神代桜。人を配することで大きさが出た。樹齢は1000年を越える。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：フジノン90mm　絞り：f32　シャッタースピード：1/4秒　フィルム：プロビア　撮影地：長野県長野市　5月

中千本。上の作品と同じ場所から。空を入れて奥行きを出す。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：フジノンT400mm　絞り：f45　シャッタースピード：2秒　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月

写真は撮影者の心を映す鏡。ふたつとして同じものはない。



上千本（かみせんぼん）。朝日に透ける花びら。地面はまだ除の中。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：CMフジノン210mm　絞り：f45　シャッタースピード：1秒　フィルム：プロビア　撮影地：奈良県吉野町　4月

は冬は昼間にうっすらと陽が射すだけで、ほとんど一日中太陽が昇らない所なんです。こうした日本に住んでいる者には信じられないような現象も、そこへ旅をしたからこそ目の当たりにできるんです。

――先生は昨年取材させていただいた時に、「写真は科学的俳句である」ということをおっしゃっていましたが、昔の俳人が旅の中で感じたことを句に詠んだように、先生の写真にも旅というものが密接に関わっているのでしょうか？

確かに芭蕉でも西行でも、旅の中で四季折々の美に出会い、それらに対して感じたことを句にしましたよね。私もまだ彼らの俳句の世界をすべて理解するまでには至っていないと思いますが、写真を通じて「現代の芭蕉になりたい」というような意識は常にもっています。旅の中でいろいろな物を見て、自分が感じた純粋な気持ちを記録に残すという意味で、写真と俳句は通じるところがあります。自分なりの物の見方を表現にして、後の世代の人にも伝えてゆく。目の前にあるモチーフを「自分の気持ちを映し出す鏡」として表現するという点でも共通しています。

――「自分の気持ちを映し出す鏡」とはどういうことか、詳しく説明していただきたいのですが。

つまり写真というものは、自分は撮る側にいても、「撮った写真に自分が写る」ものなんですよ。その人が撮った写真は、絶対に他の人と同じではない。例え富士山を一度に何百人が撮っても、同じ写真はふたつとない。そこにはそれぞれの人の気持ちの違いが、露出やフレーミングのちょっとした差となって現れるはずなんです。

だから旅先を撮影地としてそこで写真を撮るなら、その土地ならではの被写体をどこに求め、何をどのように撮りたいのかということを、事前にイメージしておくことが大切ですね。そういう意識をしっかり持たずに無闇やたらとシャッターを切るだけでは、絵ハガキのような写真しか撮れないと思います。やはり自分なりのアングルや独自の視点で撮らないと、作品としての写真にはなり得ません。そういう意識さえきちんと持っていれば、自分のイメージ通りの被写体や風景というものが、必ずそこに見つかるはずです。

――先生が様々な国を旅された中で、何か気づかれたことはありますか？

国民性の違いなどは興味深いですね。同じカリブ海の島でも、ある島の人達は友好的だけど、ある島は閉鎖的だとか。その理由は土地ごとの生活状況や教育であったり、かつての植民地支配の影響だったりと様々でしょうが、「風景の違い」だけでなく、こうした「人の違い」というのも行ってみて初めてわかることです。

また昨年、イギリスへ行ってガーデニングの草花を撮影したんですが、これなども日本人との国民性の違いが現れていると思うんです。ヨーロッパの方では自然に生息する草花というのはあまり見られなくて、イギリスでもガーデニングのような形で人の手によって造られたものを鑑賞しているでしょう。だからそれを写真に撮ることによって、日本人の自然観との違いを表現できると考えたんです。

ハートウェルのきんぽうげの仲間（英国）。ちょっとしたアングルの違い。真ん中は卓上三脚とローアングルファインダーを使って撮影。
■カメラ：ペンタックス645　レンズ：45-80mmズーム　絞り：f32AE　フィルム：ベルビア　5月

モチーフに対する視点の違いが、撮影者の個性となる。

――花といえば、今年も「全国春の花フォトコンテスト」の審査を先生にお願いするのですが、毎年審査をされていてお感じになることや、応募者へのアドバイスなどがありましたらお聞かせください。

毎回バリエーションに富んだ花々に出逢えるので、見ていて楽しく選び甲斐のあるコンテストだし、作品レベルもかなり高いと思います。花を撮るといっても、ただ優しく可愛らしく写しただけでは物足りません。ダイナミックでスケール感のある作品を、私はいつも期待しているんです。そして技術的に巧いだけでなく、見ていて内容的な奥行きが感じられる写真。「自分もその場所へ行って、その花が撮りたい」という思いをかき立ててくれるような作品に、私は魅力を感じますね。

技術的なことでまず言えるのは、「緻密に撮っていただきたい」ということ。例えば「三脚を使う」「粒子の細かいフィルムを選ぶ」といった基本的なことがしっかりできているかどうか。さらにモチーフが桜だったら、花びら一枚一枚の色合いを引き立てるために、バックには山影など少し暗めのものを持ってきたり、あと光線にしても淡い光を選ぶと良いでしょう。また足下に咲く草花を撮るのなら、できるだけ低い位置からとらえることによって、撮る人の「優しい目線」というものが表現できると思います。

いずれにしても、モチーフである花に対する撮影者の視点の違いがそれぞれの個性となってゆくのですから、先ほども言ったように「自分らしさを被写体の中にしっかりと映し出す」ことが大切だし、今回もそうした作品が多く集まることを願いたいと思います。

――どうもありがとうございました。

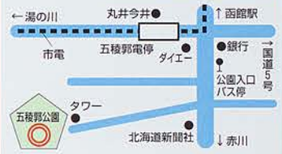
キューガーデンのシャクナゲ（英国）。曇りの日に撮影。
■カメラ：ペンタックス645　レンズ：300mm　絞り：f16AE　フィルム：ベルビア　5月

ベリー桜。雨でゆれるのを待って撮った。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5　レンズ：フジノンT400mm　絞り：f32　シャッタースピード：1秒　フィルム：ベルビア　撮影地：長野県清内路村　5月

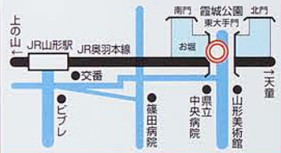
キタムラがお薦めする「春の花」撮影ポイント

〈桜の部〉

1 ①小林　泉氏　②北海道函館市函館五稜郭公園　③JR海峡線函館駅→市電（市バス）→五稜郭電停前（公園入口）→徒歩約5分　④5月上旬　午後5時30分　⑤1500本のソメイヨシノあり



2 ①稲毛　実氏　②山形県山形市　霞城公園　③JR奥羽本線山形駅→徒歩約13分　④4月中～下旬　午後9時頃　⑤水面を撮るなら無風晴天が良い



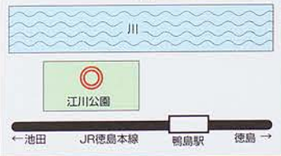
3 ①坪倉　徹眞氏　②東京都千代田区　千鳥ヶ淵の北端　③営団地下鉄東西線もしくは半蔵門線九段下駅→徒歩約5分　④4月上旬　午後2時頃

4 ①市橋　重信氏　②長野県上伊那郡飯島町　中央アルプス県立公園千人塚　③JR飯田線七久保駅→徒歩約45分／中央高速松川IC→車約15分　④4月中～上旬　午前5～9時頃　⑤三つ葉ツツジも良い

5 ①天野　勝氏　②静岡県清水市日本平　登山道の途中　③JR東海道本線清水駅→バス日本平行き→日本平サッカー場入口下車→徒歩約30分　④4月上旬　午前7～10時頃

6 ①松田　守生氏　②山口県岩国市　錦帯橋左岸上流100m　③JR山陽本線岩国駅→バス錦帯橋行き→錦帯橋下車→徒歩約15分　④4月上旬　午前中

7 ①岩崎　英昭氏　②徳島県麻植郡鴨島町　江川公園　③JR徳島本線鴨島駅→徒歩約3分　④4月上旬　⑤夜景も良い



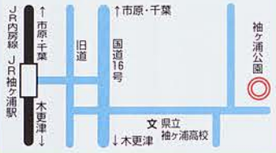
8 ①田中　富美穂氏　②熊本県阿蘇郡白水大字中村　③南阿蘇鉄道中村駅→長陽村方面徒歩約5分に案内板→阿蘇山に向かって徒歩15～20分　④4月上～中旬　日の出・日没が良い　⑤最盛期のバラツキが大きい（問い合わせは白水村 096 76-2-9111）

9 ①霞本　光弘氏　②沖縄県名護市本部半島　八重岳桜の森公園　③沖縄バス名護十字路バス停→93または76系統のバスで約14Km→八重岳入口下車→頂上に向かって徒歩約3km→八重岳桜の森公園　④1月下旬12時頃　⑤月夜も良い

〈一般の部〉

1 ①大平　光徳氏　②青森県上北郡十和田八幡平国立公園奥入瀬渓流の下流部「惣辺」付近　③JR東北本線青森駅→JRバス酸ヶ湯・蔦温泉経由約2時間10分→奥入瀬渓谷　④5月中～下旬　⑤ツツジは年によって当たりはずれ多し

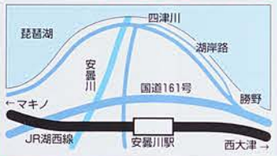
2 ①半田　孔昭氏　②千葉県袖ヶ浦市　袖ヶ浦公園　③JR内房線袖ヶ浦駅→徒歩約40分（車で約10分）　④4月下～5月上旬　⑤薄曇り・雨上がりが良い



3 ①安藤　充一氏　②長野県上水内郡戸隠村戸隠高原　③JR信越本線長野駅→川中島バス戸隠キャンプ場行き→奥社入口下車→キャンプ場に向かって徒歩　④5月上旬　午前7時頃

4 ①杉浦　弓雄氏　②岐阜県養老郡養老町と安八郡輪之町境界・揖斐川沿いの菜の花群落　③JR東海道本線大垣駅→車で揖斐川沿い　④4月上旬　終日　⑤雨の日には風情あり

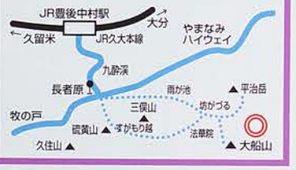
5 ①青木　正行氏　②滋賀県安曇川町四津川　琵琶湖・近江白浜北側の松並木　③JR湖西線安曇川駅→バスかタクシーで白浜方面　④4月上～中旬　午前中



6 ①田中　隆幸氏　②広島県山県郡豊平町　阿坂地区　③中国自動車道広島IC→R261を千代田方面→県道40号に入り豊平町へ　④6月中旬　午前8時頃　⑤雨の日も良い

7 ①横田　康治氏　②高知県吾川郡吾川村大崎桜　③JR土讃線高知駅→JR四国バス松山駅行き→大崎下車→徒歩約1時間（3km）→桜　④4月中旬　早朝　⑤贋箪桜と芝桜の両方が撮影可能な時もあり（問い合わせは吾川村 0889-35-0019）

8 ①佐々木　義治氏　②大分県直入郡　大船山山頂直下　③JR久大本線豊後中村駅→バス約45分→長者原下車→徒歩約4時間→大船山　④6月中旬　午前10時～午後3時　⑤付近はミヤマキリシマの宝庫



9 ①木田　茂氏　②宮崎県西都市西都原公園　③JR日豊本線宮崎駅→宮崎交通バス約1時間→西都原公園　④3月下旬～4月上旬　⑤桜と菜の花が同時に開花、古墳もあり（問い合わせは西都市役所観光協会 0983-43-1111）

●印はカメラのキタムラがある地域。

ここにご紹介する撮影ポイントおよび写真は第5回全国春の花フォトコンテストに入賞された方々にご協力いただいたものです。
説明の番号は　①＝撮影者　②＝撮影場所　③＝交通手段　④＝撮影チャンスの時期と時間　⑤＝その他の情報

※ここに掲載した撮影ポイントは、ほんの一例です。
※撮影時期はその年の天候によって左右されます。確認の上お出かけください。
※掲載写真は昨年以前に撮影されたものであるため、現在は景観が変わっている場合もありますのでご了承ください。
※ここにご紹介した場所で撮影をする場合は、常識的なエチケット・マナーを守るようにしましょう。特に撮影地の所有者及び近隣に迷惑をかけないよう、また自然環境への配慮などを忘れないよう、ご注意ください。

カメラのキタムラ 第6回全国 春の花 フォトコンテスト

賞金・賞品総額 500万円!

カメラのキタムラ
「第6回全国"春の花"フォトコンテスト」
作品募集のお知らせ

年々応募点数も作品のレベルもアップしており、写真ファンの皆さんにもすっかりおなじみとなったキタムラ「全国"春の花"フォトコンテスト」。今回も桜はもちろん、春に咲く花をモチーフとした作品なら何でもOKですので、皆さんの傑作・力作をふるってご応募ください。

※詳しくは、3月上旬よりカメラのキタムラ店頭に設置される応募用紙またはポスターをご覧ください。

写真の楽しみ いっそう広がる

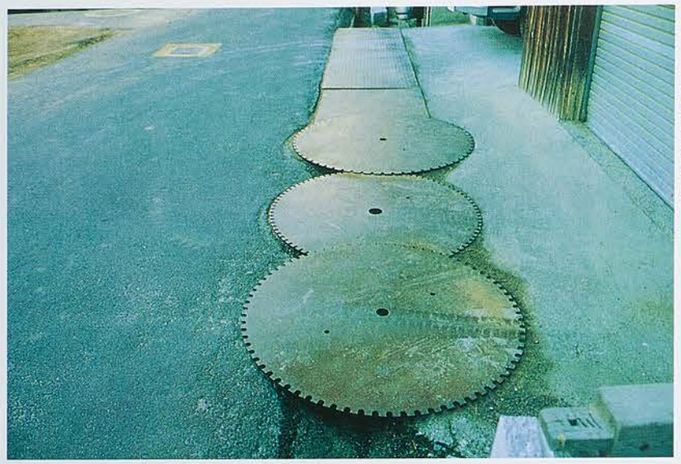
日常風景ウォッチング〈第三回〉

「路上観察」の達人 赤瀬川原平氏①

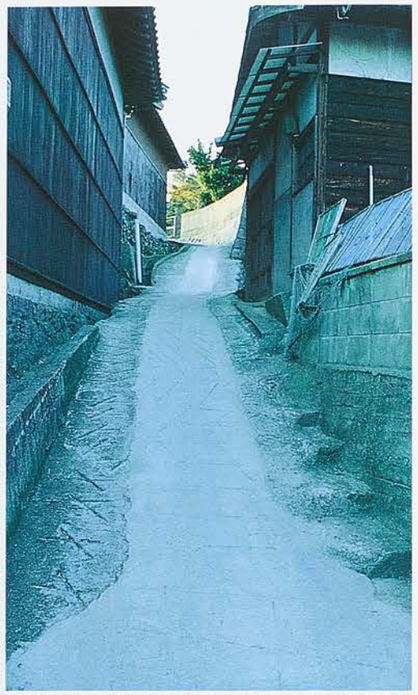
春はアマチュアカメラマンにとってもウレシイ季節。
自然風景では梅や桜などの美しい花々が次々と咲きほころび、
季節の歳事としては卒業式や入学式が行なわれるなど、
絵になる被写体が盛りだくさん。
こうした撮影でカメラを持って出かけられた際には、
何気ない行き帰りの風景にも、ちょっとだけ目を向けてみませんか？
春の陽気の中、散歩がてら街を見回せば、見慣れた光景の中にも
「おや？」と思うような面白い被写体を発見できるはずです。
これまで2回ご登場いただいた南伸坊氏に代わり、
今回は「超芸術トマソン」や「路上観察学会」などの活動により、
長年にわたって様々な街の風景を観察し続けている
赤瀬川原平氏にご登場いただき、
ご自身と日常風景との関わりについてお話を伺いました。

あかせがわ げんぺい
1937年横浜生まれ。画家・作家。60年代は前衛芸術家として活動し、その後イラストレーターとして活躍。81年には『父が消えた』（文春文庫）で芥川賞を受賞。著書は『超芸術トマソン』（白夜書房・ちくま文庫）、『東京路上探険記』（新潮文庫）、『千利休―無言の前衛』（岩波新書）、『名画読本』（光文社）、『正体不明』（東京書籍）など。

「路上観察」の達人 赤瀬川 原平氏①



「恐怖のドブ板」以前にフィクションで"丸ノコを敷きつめた床"なんてものを考えて、小説に書いたことがあったけど、実際にあってビックリ！　香川県の牟礼町にて。



「ゲレンデ風の露地」雪国でないのが惜しい。これが雪の坂道だったら、上からピュン！ピュン！とスキーヤーが滑り降りてくる姿が目に浮かぶ。香川県の伊吹島にて。

「愛の三輪車」物でもふたつ並ぶと、その間に愛があるような雰囲気が生まれる。かわいらしい愛の三輪車。主婦の真似して世間話してるようにも見える。埼玉県の川越にて。

「新旧」新世代と旧世代の消火器。若い方があどけない顔を傾けて自信なさそうだけど、旧世代の方は姿勢も正しく毅然として、やっぱり根性が違う。埼玉県の川越にて。

面白いコトをやっていた人たちとの出会いが、「路上観察学会」へと発展してしまったんです。

赤瀬川原平氏といえば、60年代は前衛芸術家として活躍し、また80年代には尾辻克彦の名で芥川賞を受賞、作家としても注目された多才な人物。そして70年代より路上の変わった建物などにも目を向け、"超芸術トマソン"というテーマにより「不動産に付着していて美しく保存されている無用の長物」の数々を紹介。それまでなかった新しい街の見方を私たちに教えてくれました。そしてこの「街中のちょっと気になるモノ」を探索する活動が、1986年結成の「路上観察学会」へと発展していったのです。

この学会は赤瀬川氏のほか、「東京建築探偵団」として近代建築の実地調査をしていた東大教授の藤森照信氏、古い建物のカケラを収集していた一木努氏、マンホールのふたのデザイン収集をしていた林丈二氏、そして先号のこのコーナーにご登場いただいた南伸坊氏らにより発足。その後新たなメンバーも加わり、「通常は景観とはみなされない看板や貼り紙、廃屋などを"見立て"によって楽しむ知的な遊び」を全国各地で実施しています。

今回は赤瀬川さんにインタビューを行ない、「路上観察学会」発足の経緯や、ご自身にとっての路上観察の魅力などをお聞きしました。また、今までに撮られた路上物件写真の中から、ご本人がおすすめする傑作の数々を誌上でご紹介させていただきましたので、赤瀬川さんのお話と合わせてお楽しみください。

路上観察の楽しみといえば、やはり私も南さんと同じように、自分が見つけた面白い物件の写真を人に見てもらい、あれこれ言い合うといったことですねぇ。いい物件を見つけたら、コレクター的な意識としては、自分のモノとして囲っておきたいという気持ちもあるんだけど、一方で人に自慢したいという一面もある。だから「人に見てもらいたい」という気持ちは、我々「路上観察学会」のメンバーたちは皆もっていますよね。自分のコレクションだけで終わらせてはつまらないと思うんですよ。

「路上観察学会」が作られた経緯を話すとちょっと長くなるんですが、藤森さんの「東京建築探偵団」にしろ林さんのマンホールにしろ、それぞれ面白いコトをやっているヒトがいるなぁって感じで、面識はないけど以前から知ってはいたんですよ。そんな折、林さんの著書に書評を書く依頼を受けたんですが、それが縁で、林さんがヨーロッパで撮ってきたマンホールのふたを発表するスライド上映会に行く機会にも恵まれたんです。そこへ藤森さんたちも来るというので喜んで行ったんですが、会っていろいろ話してみると、どうも林さんの本の書評は最初、藤森さんのところに依頼がいったようなんです。藤森さんはその頃まだ、真面目な学者さんだったんで（笑）、こういうものに興味はあっても立場上

「路上観察」の達人 赤瀬川 原平氏①

『屋根からとび出す？』これは歩道橋の上から撮ったんだけど、こんなところから子供がとび出すかねぇ？屋根から転がり落ちてくるのかしら？埼玉県の桶川にて。

『墓の墓場』コッパ処理委員会によって、コッパ微塵にされ捨てられた墓の墓場が見つかった。ああ、無情。香川県の庵治町にて。

『大福湯』右の「三日月湯」からほど近い、こちらは今も現役の「大福湯」。明治初年の建造物で、ゆうに一世紀を越える、おそらく我が国最古の銭湯。香川県の土庄町にて。

『三日月湯』豪華絢爛なしっくい細工でできた銭湯の戸袋。その後「三日月湯」は跡形もなく整地され、路上伝説に語り継がれる存在となってしまった。香川県の土庄町にて。

『だるまを置かない』この神社で「だるま市」が開かれる時、だるま供養でみんながここに置きたがるという。季節はずれにこれだけ読むと不思議。埼玉県の川越にて。

今まで見えなかったものに気がついた時の、「目からウロコが落ちる瞬間」がたまらないんですよ。

引き受けられなかったんでしょう。それでトマソンなんかをやっているアイツにやらせたらどうだってんで、僕のところに話が来たらしいんです。

その後ラジオ番組で、私が友人を呼んでトークをするという企画があったんですが、その時にまだ1回しか会ったことのない藤森さんに来てもらったんです。そこですっかり意気投合してしまい、30分の収録のところ2時間位しゃべってしまいました。その時に私の中で、「路上観察学」というものの論理的解明がなされたんです。これは考察に値する立派な学問、つまり考現学なんだなと。それまでは、何となく路上の面白い物件に興味を抱いていたんだけど、しっかりした分析力をもった藤森さんの話によって、その本質がはっきりと見えてきましたね。その頃の私は「トマソン」というテーマの中で活動していたんですが、だんだんそれだけでは物足りなさを感じるようになっていた。そんな頃に「東京建築探偵団」の藤森さんや、「マンホールのふた」の林さんと出会って、あらゆる路上のものへと観察の対象が広がっていったんですよ。それから間もなく、私と藤森さん、林さんのほかに、「建物のカケラ」の一木さんや、「ハリガミ考現学」の南さんなんかで京都の路上を観察するという雑誌の企画があって、そこでこの際、「路上観察学会」を作ろうという話になったんですよ。大げさに記者会見なんかもやって、みんなで正装して発足の宣言なんかを読んだりしました(笑)。それで発足当時から結構面白がられて、NHKにまで取り上げられましたね。そのうち自治体から「講演会をやってほしい」なんていう依頼も来て、「本当にいいんだろうか？」と思いましたよ(笑)。活動の中で撮った物件の写真展などをやっても、小さい会場に入り切れない人たちがカーテンの透き間から一所懸命覗いているような状況で、とにかく最初から盛り上がっていましたね。

すよね。また山形の銀山温泉の方では戸袋に屋号や住んでいる人の名前が彫っているところが多くてね。最初にどこかの家が始めたのを他の家の人が見て、「じゃあウチも」って感じで広まったんじゃないかなぁ。あとは埼玉でよく見かけた擬木ね。よく公園なんかに擬木ってあるでしょう。あれで見映えのいい門柱なんかを作っているんですよ。それまで僕らは擬木ってものは、「本物の木を使えないから作り物で済ませてる」って感じである意味でバカにしていたんですが、これだけ立派にやられちゃったら認めざるを得ないと思いましたよ。中には木の皮がはがれたような質感をきれいに細工していたり、わざわざ板の形に作っているものなんかもあって、こうなるともう、芸術の域ですよ。ポップアートの世界ですね(笑)。

やっぱり興味深い物件が多発する立地条件ってものがあって、そういう街を歩いていると、どうも何かがありそうな気配が漂ってくるんですよね。特に50年とか100年とか、ある程度の歴史や伝統のある街っていうのは、たいてい何かがあるものです。ある一定の時間の積み重ねとか背景というものが、物件に味わいを醸し出しているんですよ。でも、それがあまり立派なものだと、今度は由緒ある神社や寺のように、手厚く保護する対象となってしまうでしょう。そうなるとまたちょっと、我々が面白いと思う対象からは外れてしまうんですけどね。

私自身の経験からいうと、特に坂地というのは面白い物件が多発するポイントですね。中でも港町や島などの坂地は、切り立っていて開発しにくいんですよ。工事の機械も入りにくいんで、おのずと手作業で建物を造ったりすることが多いようなんです。例えば香川の伊吹島なんかも坂が多くて、その道の脇にたくさんのヒトデを並べていたりするんですよ。これが畑の肥料になるらしいんだけど、我々から見ると「あっ、地上に星空がある」なんて思えるでしょう。だからこういう所へ行くと、平らに造成された新開地などでは絶対に見られない、我々にはたまらない面白さをもった物件が続々と見つかるんですよ。

こうした我々が感じているようなことに、得てしてその物件を作った人や持ち主は関知していなくて、彼らは毎日の生活の中で、その物件にいちいちぶつかっては「ジャマだなぁ」なんて思ってる場合も多いんですよ。そしてそのジャマ者が何年もそのまま放置されて擦り減った様子なんかに、我々はより味わい深いものを感じるんですけど、そんな不要なものたちだから、いつ取り壊されたり捨てられてしまうかわからないという危うさも持っているんですよね。

だから面白い物件っていうのは、「外からの目」で見つけることが多いですね。持ち主や近所の人にはわからないけれど、よそからその地を訪れた者の目に止まるもの。またそれは見る人個々の視点の持ち方によるところも大きいと思います。ひとりの人間がものを見たり考えたりできる範囲なんて限られていますから、どこかが見えていたら、その分ほかが見えなくなるものでしょう。この今まで見えなかったものにいきなり気がついた時の、「目からウロコが落ちる瞬間」っていうのが、たまらなく気持ちいいんですよ。

「路上観察学会」の発足や活動に関するお話を、興味深いエピソードを交えて語り続ける赤瀬川さん。次号では、赤瀬川さんが考える路上観察の楽しみ方を、さらに深く掘り下げて語っていただきます。お楽しみに。

(次号につづく)

『畑の星空』坂のある風景にヒトデの大群が潜んでいる。これは畑の肥料として本当は土の中に埋めるそうだ。畑に星空、路上天文学の大発見だ。香川県の伊吹島にて。

『リタイア狛犬』定年退職後の狛犬の夫婦。「もう仕事はしなくていいんだよね」「つらかったね」としみじみ語り合う。香川県の庵治町にて。

『自由のライオン』私の気にいっている物件のひとつ、野良化して自由になったライオン。「野良ライオン」とも呼ばれている。埼玉県の飯能にて。

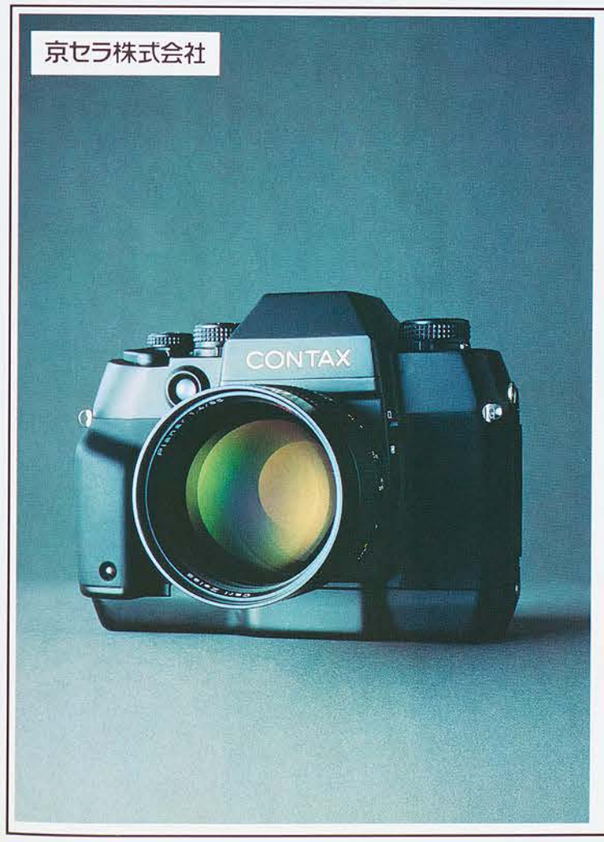
『退職したパンダ』ラクダが「おまえパンダだったんじゃないのか」なんて聞くと、パンダが「パンダはもうやめたよ、シロクマで十分」なんて言ってる。埼玉県の幸手にて。

Nikon F5

希望小売価格〈税別〉
ボディ本体（ストラップ付）　¥325,000
AFニッコール50mmF1.4D付　¥363,000

ニコンF5は3年保証。お客様の信頼に品質でお応えします。（ニコンF5ボディ本体は、保証書に記載の保証規定によりご購入日から3年間、保証修理をいたします。くわしくは、当社サービス機関にお問い合わせください。）

株式会社 ニコン　本社 100-8331 東京都千代田区丸の内3-2-3（富士ビル）
製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話(03)3216-1010 FAX(03)3287-0897



CONTAX AX

Automatic Back Focusing System

- 永年愛用のカール・ツァイスT*レンズがそのまま使える画期的なAFシステム
- 新開発オートマティック・バックフォーカシング方式
- 作画重視の測光方式、中央重点平均測光／スポット測光
- 高精度 最高速1/6000秒縦走行フォーカルプレンシャッター
- チタンカバー採用の強靭なアルミダイキャストボディ
- 絞り値、シャッター速度、露出モード、露出補正値の撮影データ等を記録できる専用データバックD-8
- メーカー希望小売価格：本体　250,000円　データバックD-8　68,000円（税抜き価格）
- お問い合わせは：京セラ（株）光学機器事業本部〒150東京都渋谷区神宮前6-27-8 TEL.03-3797-4611（代）

初めて見せられた写真に、「息がかかると消える」と叱られた下岡蓮杖

日本の写真の開祖と言われている人物には、前回このコーナーで紹介した上野彦馬の他にもう一人、下岡蓮杖（しもおかれんじょう）がいます。蓮杖は文政6年（1823年）に伊豆の下田で名字帯刀が許された回船判問屋の桜田家に三男として生まれました。幼名を久之助といい、小さい頃から絵が好きで、毎日浜辺の砂地に棒で絵を描いていたといわれます。

6才の時に農家に養子に出されたのですが、養父母が相次いで亡くなったために桜田家に戻されます。13才の時に絵師を志して江戸に向かいましたが、その旅の途中で世話になった箱根の旅籠に、出世した後にお礼に行ったという逸話が残っており、蓮杖の義理堅い人柄がうかがわれます。

その後、狩野春川の弟である薫川の弟子となりますが、塾の講義で「西洋には奇妙な器械があり、その器械を一度差し向けられると、ひげ一本、ほくろ一つが寸分たがわず、鏡に映すが如く、鉄板に再現される」と聞き、蓮杖の興味をひきます。

しばらくして師匠の使いで何度か薩摩藩の下屋敷へおもむく機会を得ましたが、そこで親しくなった藩士に「珍しいものを見せてやる」と言われ、一枚の鏡面に男の姿が映し出されているものを見せられます。「これは銀板写真と言って、筆で描いたものではなく、器械で写して薬で男を現したものだ。南蛮渡来の珍品で、日本に二つとないものである」と藩士は胸をそらして説明したそうです。蓮杖は『もしやこれが塾で聞いた西洋の器械で写したものではないか』と思い、顔を近づけたところ、「息を吹きかけると絵が消えてしまう」と叱られ、あわてて手拭いを口に当てた、ということです。

この写真を見た蓮丈は「自分がいくら器用に描いても、この真似はできない」と思い、写真技術の習得を決意します。長崎に行けば習うことができるだろうと考えましたが、長崎までの旅費が工面できません。ちょうどその頃、浦賀では黒船騒ぎが起こっていました。そこで蓮杖は、思い切ってその黒船に乗っている外人から教えを乞おうと、砲台の番人になって黒船を待ったりしました。

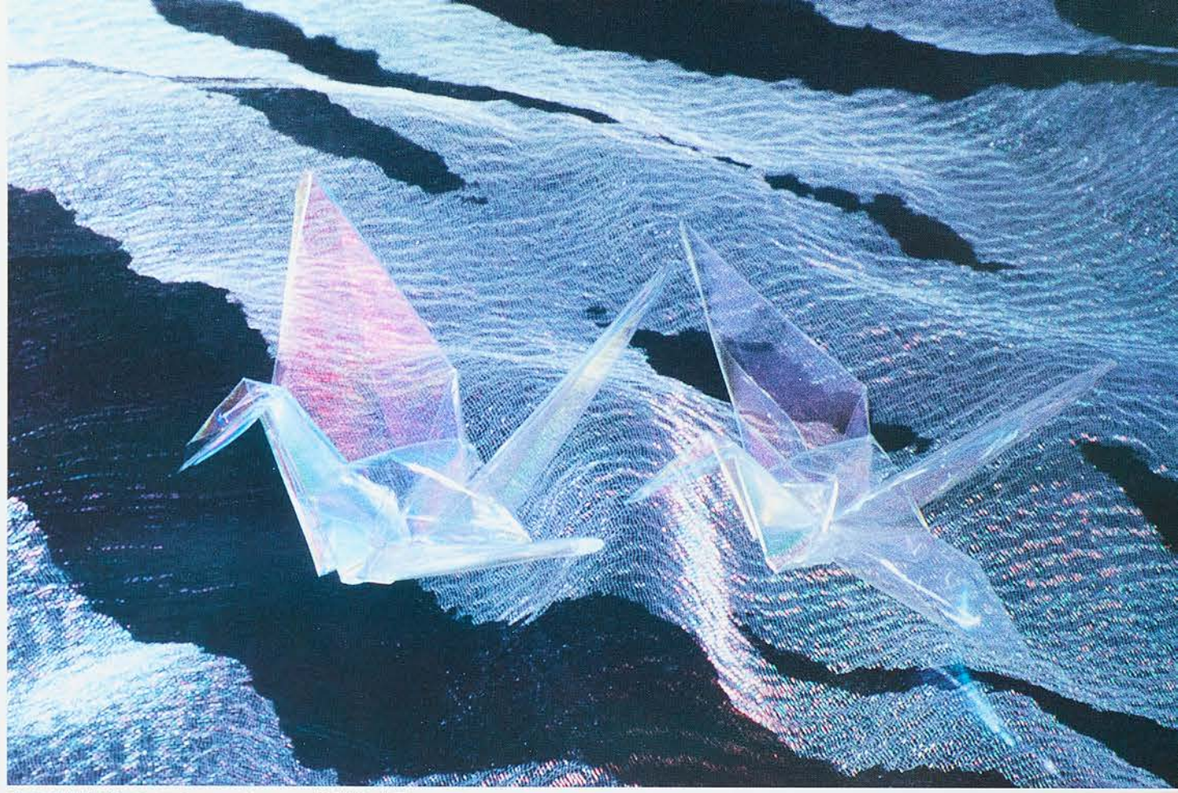
その後、蓮杖が下田に戻っていた時に、ロシア艦隊のジアナ号が難破して下田に滞在することになりました。その宿舎に蓮杖は給仕として潜入、写真機をその目で見ることができたと言われています。しかし当時は外人と直接話をすると斬罪となったため、写真機を見ただけで終わったようです。このように、蓮杖は機会があれば写真技術の習得を心がけ、関東の写真の開祖と言われるまでになりました。

こうしてみますと、前回と今回の二回に分けて紹介しました、日本の写真の開祖の二人は、上野彦馬が科学の方から写真を研究し、蓮杖は絵師として写真を習得していったことになります。

蓮杖の自写像

蓮杖を狩野薫川に引き合わせたといわれている木村政信

近藤勇の有名な写真。撮影者不明だが、蓮杖の作ともいわれている



鶴の素材は透明なポリエチレン、バックには白黒模様の化繊のマフラーを使用。照明の角度で夢幻の妙を表現。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ100mm　絞り：f32　AEマイナス1/2 補正　フィルム：コニカLV200　PLフィルター・偏光板・カラー用ブルーランプ使用

THE フォトワールド ⑫

「折り紙」を撮る

一枚の紙に命を与え、豊かな心のふれあいを表現したい。

末廣和子氏〈写真家〉

私たちにも子供の頃から馴染みの深い、日本の伝統文化のひとつである「折り紙」。一枚の紙が様々な形に変化した姿には造形的な美しさが感じられるが、その折り紙の面白さをカメラのファインダーを通してとらえることにより、独自の写真作品を創り出しておられるのが、今回ご紹介する末廣和子氏だ。

もともと大学の教授をされていた末廣氏が、写真自体を始められたのはすでに60才の頃。還暦を迎えた時に、息子さんからカメラをプレゼントされたのがきっかけだという。「写真家の上野千鶴子先生が講師を勤める写真教室に通った後で、毎年の干支の玩具を撮影して作った年賀状を差し上げていたところ、それをご覧になった先生が個展の開催を勧めてくださったんです」と語る末廣氏。老後の趣味にと写真を始められる方は多いが、60才からのスタートで写真展を開くまでになられたというお話には、感嘆せざるを得ない。そしてその個展で末廣氏の作品を見た方から思いがけなく「被写体の干支玩具も自分で作られたのですか？」と尋ねられたことから、何か自作のものを撮ってみたいと考え、思い当たったモチーフが〝折り紙〟だったという。

被写体としての折り紙の魅力は何かとお尋ねすると、「紙の重なりや折り目と光とが醸し出す面白さ、つまりラインライトがくっきりと浮かび上がった様の美しさ」だと末廣氏は答える。材料となる紙もごく一般に市販されているものだが、和紙だとか洋紙だとかの素材によってそれぞれ違った質感をもち、「写真に撮っても〝柔らかさの出る紙〟〝冷たさの出る紙〟といった特徴が表現できて、大変味わい深いんです」と語る末廣氏。また時にはビニールやセロハンのような素材によって透明感を出したり、トレーシングペーパーを用いて光の出方に独特の効果を施したりと、素材選びや作品創りには、常に独自の工夫やアイデアを取り入れているという。

末廣氏の作品を拝見すると、一枚の紙でできているはずの動物や鳥たちが、まるで命を吹き込まれたかのように、豊かな表情や動きをもって見る者を楽しませてくれるとともに、背景の美しさにも思わず目を奪われる。主題である折り紙だけでなく、こうした背景のセッティングも、すべて末廣氏ご自身のアイデアと手技によるものだ。「背景のセットにも、風呂敷やスカーフなど身近にあるごく普通のものを利用しています。私の撮影はまず折り紙を俳優に見立て、作品のテーマに合った舞台を設定する。つまり自分でストーリーを思い巡らして演出するのが楽しいんですよ」。

こうした独自の発想から、面白い撮影手法も生まれてくるようだ。例えば折り鶴が中空を飛んでいるように見せる撮り方がその一例として挙げられる。「私がまだ自分で折り紙をうまく作れなかった頃に、入会している『折り紙同好会』の先生や先輩たちから戴いた作品を写真に撮っていたんですが、折り紙だけに鶴の口ばしが欠けていたりとか、形が崩れてしまっている場合もあるんです。そんな部分をうまく隠して、折り紙を作られた方にはなるべくきれいな写真をお見せしたいと被写体の高さやアングルを工夫しているうち、中空に浮かんだ鶴を下から撮ろうと考えました。そこで思いついたアイデアが、透明なガラスのテーブルに載せるという方法だったんです。被写体をガラステーブルごと動かすことで、より多彩なアングルや表現が作り出せるようになりました」。また、実際に糸で折り鶴を吊って中空に浮かせる場合もあるそうだが、この手法だとなかなか思ったところに止まっていてくれなくて苦労するという。「息を吹きかけて揺らし、ちょうどいい位置に来た時にシャッターを切ろうとしたけれどなかなかタイミングが合いませんでした。そこで小さな扇風機を使って揺らそうと考えたこともありますが、これも動きが大き過ぎて、うまくいかないんです。いろいろと試してみると、エアコンから出ている冷暖房の微風を利用する方法が意外と良かったりするんですよ」。折り紙の素材選びからセッティングを含めた撮影手法まで、実験的にいろいろと試行錯誤する中から発見してゆくのがご自身のやり方であり、それがまた撮影の楽しみなのだと末廣氏はにこやかに語り続ける。

「折り紙というモチーフによって、作品を見る人の心をなごませてあげたい」と言う末廣氏だが、このテーマはご自身がかつて大学で「家族関係学」を専門に教えておられたこととともつながりがあるようだ。「人は悩みを打ち明けるとか、本当に誰かに聞いてもらいたい事がある時は、やはり相手のそばに寄り添って話すものですよね。折り紙の写真でもひとつの画面空間の中で、夫婦であったり、親子であったりという役割を被写体に与えて、そんな心のふれあいを表現したいと思っています。私自身の折り紙や写真の技術にしても、作品創りに対するこうした思いにしても、やはり自分ひとりの力で培ってきたわけではなく、写真と折り紙それぞれの師をはじめ、人との出会いやつながりによって得られたものだと思いますから」。

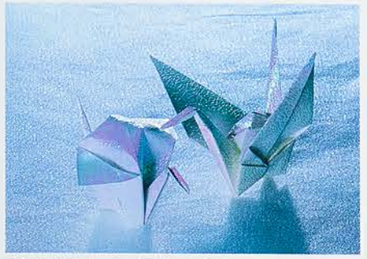
市販の教本などを見れば、身近にある紙で誰でも簡単に作れる「折り紙」。読者の皆さんも、時にはお子さんやお孫さんとのふれあいを楽しみながら、手作りのぬくもりや夢のある折り紙の世界に、カメラを向けてみてはいかがだろうか。

ガラスの小皿の水に、花形ロウソクを浮かべて点灯。ネズミが明かりに誘われて…という設定。特に折り紙ネズミのラインライトと質感に注意した。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ100mm　絞り：f32　AEマイナス1/4補正　フィルム：コニカLV200　カラー用ブルーランプ使用

千羽の鶴が弧を描いて渡って来る様をイメージし、芝居の舞台屏風のように金雲を配した赤い和紙に折り鶴を並べ、自然光で撮影。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ50mm　絞り：f32 AEフィルム：コニカLV200 カラー用ブルーランプ使用

馬の姿が洋風なので、あえて幻想的な世界を狙った。雪景色のセッティングは綿を白ジョーゼットの布で包み、背景の木は花束の包装紙を利用。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ100mm　絞り：f32 AEプラス1/2 補正　フィルム：コニカLV200　カラー用ブルーランプ使用

束帯装束のような気品と貴禄をもつ重厚な折り鶴。その下から幻想的な光を当て、ライトの熱で敷物のセロハンにも表情を出した。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ100mm　絞り：f32　AEプラス2 補正　フィルム：フジカラースーパーG200　カラー用ブルーランプ使用



形で心模様を、色で厳粛さを表現。バックと折り鶴に同じ小さなキラキラ模様の紙を使い、ライティングで一体化を狙った。
■カメラ：ペンタックスLX　レンズ：マクロ100mm　絞り：f32　AEプラス1/2 補正　フィルム：コニカLV200　カラー用ブルーランプ使用

すえひろ かずこ
1918年東京都生まれ。女子栄養大学教授として在職中の1980年に写真家・上野千鶴子氏に師事。干支玩具や折り紙を題材にした写真に取り組み、退職後の現在まで数々の写真展で発表。「鶴の会写真展」「四字成句写真展」には毎年出品。フォトクラブKC会員、全日本写真連盟会員。写真集『折紙景様ーおりがみ みた目のおもしろさ』（光村印刷）。

新・メーカー探訪　現代銘品カメラ列伝③　ミノルタα-807si編

撮影者の意志を反映させる「好性能」AF一眼の最上位機。

日本初の本格的AF一眼レフカメラとして1985年に発売され、カメラ市場に一大革命をもたらしたミノルタα-7000。それから13年を経た現在、αシリーズの後継機は第4世代と呼ばれる展開の中で、さらなる進化を続けています。今回はミノルタをお訪ねして、現在のαシリーズ最上位機種・α-807si-の開発についてお話を伺いました。

多機能とシンプルさ、そして使う人の心地良さを追求。

αシリーズの基本開発理念は、撮影領域を拡大させるための「多機能性」を追求するとともに、「シンプルな操作性」も両立させ、誰にでも使いやすいカメラとしてユーザーに提供すること。そしてこの理念を根底に置き、シリーズの各世代ごとのテーマに沿った開発がなされているのだ。

α-7000に始まる第一世代では、それまでなかったAFという新たな機能を我々に提供してくれたが、α-7700iに代表される第二世代ではそのAFをさらに発展させるとともに、多様な撮影状況や撮影者の個性化に対応したオプション機能をカードで付加できる「インテリジェントカードシステム」を導入した。そして第三世代にあたるα-7xiでは、一般ユーザーでも熟練者のように的確な撮影ができるシステム「エキスパートプログラム」を搭載　また、カメラを構えるだけで自動的に撮影準備を完了できる「ゼロタイムオート」など、操作性の自動化・シンプル化をさらに進歩させている。

「現在の第4世代になると、すでにAEやAFといった技術的な部分ではかなり洗練されていますので、もう一度開発の原点に帰り『撮影者に、心地良さ、を提供するとはどういうことか』を再検討しました。そしてそこから『好性能』というコンセプトに至ったんです」と語るのは、ミノルタ(株)カメラ開発センターの梶田英夫部長。明解な操作性で気持ちよく使ってもらえるという意味の「好性能」は、第4世代の一号機であるα-707si-が世界4大カメラ賞を受賞したことでも証明された。そしてこの第4世代の最上位機としてラインナップされたのが、昨年登場したα-807si-である。

ユーザーの要望にきめ細かく対応した数々の新機能を搭載。

「α-707si-が好評でしたので、この機種をベースにユーザーの声と技術の進歩を取り入れて、さらに完成度を高めるというのがα-807si-の基本的な考え方です。その新たに搭載された機能のひとつが、世界初のガイドナンバー20という大光量をもつ内蔵フラッシュです」と、α-807si-の開発リーダーを務めたミノルタ(株)カメラ生産センター川路智彦課長は語る。この大型ストロボを収納するために大きくデザインされたα-807si-のヘッド部は、焦点距離に連動してストロボの照射角がズームする仕組みになっている。そしてこのストロボは、例えば日中の逆光撮影時の補助光として、太陽光に負けないだけの光量が必要とされる時などにその威力を発揮するという。

世界初、ガイドナンバー20の「大光量ズームフラッシュ」をヘッド部に搭載。焦点距離24mm～80mmに連動して照射角がズームする。

また、従来の「インテリジェントカードシステム」が持っていた機能をボディに内蔵したのもα-807si-の大きな特徴だ。カードシステムもその機能自体はユーザーに好評であったが、一度に一枚のカード、つまりひとつの機能しかセットできなかったため、「露出ブラケット機能を使いながら、撮影データの記録もしたい」といった要望には応えられなかった。しかしその後電子技術の向上が図られ、α-807si-ではこうした付加機能や撮影シーンに対応した設定機能をカメラ本体に組み込むことによって、複数機能の併用を可能にしたのだ。

ミノルタ(株)カメラ生産センター　川路智彦氏

α-807si-にはこのほかにも、撮影者の好みに合わせたオリジナルの撮影モードを3種までインプットできる登録機能や、16種類と充実したカスタム設定など、ユーザーニーズへのきめ細かい対応が随所に見られる。

ミノルタ(株)カメラ開発センター　鈴木達弥氏

「通常、我々がひとつのカメラを開発する際には、『こうした使い方をする撮影者のためにはこうすべきだ』という考え方に対し、『逆にこういう希望をもつユーザーにはこの方がいい』といったことを論議して、最終的にどちらかに決まるのですが、そうして作られた製品には、当然のことながら要望が取り入れられなかった側のお客様からは不満が出るわけです。ですからこちらがひとつのスタイルを決めこんで押しつけるのでなく、様々な使い方ができる機能を一台のカメラに搭載し、ユーザー側に選んでいただけるのならその方が良いのではないかと、発想を転換した結果なんです」と、ミノルタ(株)カメラ開発センターの鈴木達弥氏は「撮影者の意志や個性を反映させられるカメラ」であることを強調する。

そしてカメラボディのみならず、レンズにもユーザーの声が反映されていると語るのは、ミノルタ(株)カメラ開発センター課長研究員の工藤吉信氏。「従来のレンズ群には広角系のズームレンズがラインナップされていなかったのですが、ユーザーの要望に応える形でα-807si-の発売に合わせ、広角ズーム2アイテムを開発しました。特に17～35mmのAFズームは円形絞りを採用したことにより絞り込んでもボケが角ばらず、ソフトできれいなボケ味を出せるのが特徴です」。

「多機能性」と「シンプル操作」を追求し、常にユーザー志向の製品を送り出してきたミノルタ。これからも我々ユーザーの気持ちを優れた機能という形に替えて、そのカメラやレンズに搭載してくれることを期待したい。

ミノルタ(株)カメラ開発センター　梶田英夫氏

ミノルタα-807si（1997年発売）α-707siの機能をさらにグレードアップさせた、αシリーズ第4世代の最新機。「大光量ズームフラッシュ」「撮影シーンセレクター」をはじめ、ユーザーの要望と最新の技術を取り入れた高機能を搭載。

MINOLTA

●ボディ正面
ヘッド部の大きさが特徴的なボディ。大型のストロボを搭載するとともに従来のレンズにも適応させ、デザイン的にまとめ上げた結果、この個性的なフォルムとなった。

●ボディ上面
右側の液晶表示部は、被写体の明るさに応じて照明される。ここにはメモリーした撮影データが呼び出せるほか、撮影シーンセレクターの各モードやAFモードなどが表示される。

●ボディ背面
ファインダー右上の視度調整ダイヤルにより、撮影者の視力に合わせて像や表示の視度調整が可能。下部のアイスタートスイッチを入れれば、構えるだけで撮影準備が完了する。

ミノルタ(株)カメラ開発センター　工藤吉信氏

撮影便利メモ①

カメラを片手に春の野山を歩く

南北に縦に長い日本の春の訪れは、その地方によってかなり様相が異なりますが、ひと雨ごとに暖かさが増し、寒さに縮こまった動植物が動き出す季節の風情に変わりはありません。そうした春の息吹から、私たちは時には生命の可憐さを、また時には生命力の力強さを感じ取ることができます。写真を愛する人たちにとっては、春の野山は被写体の宝庫なのです。

そこで今回は、カメラを片手に春の野山を散策する際に、必要となるもの、用意していくと便利なもの、また撮影のポイントなどを紹介します。

まず、野山を歩くのですから、当然のことながら持参するカメラやアクセサリーなどは、できるだけコンパクトにまとめます。いくらコンパクトにまとめようとしても、あれも撮りたい、これも撮りたいと欲張ると、自然と大荷物になってしまいますので、できれば出掛ける前に、何を撮るかをある程度決めておくとよいでしょう。景色を中心に撮影するのか、植物に焦点を当てるのか、といった程度は決めておきます。

カメラは、春の野山を背景にして、人物を入れたポートレートを撮るのであれば、コンパクトカメラでも十分なのですが、たとえば小さな花を接写で大きく写したい、またボケを使って春の暖かな雰囲気を出したい、というのであれば、やはり一眼レフが便利です。

一眼レフカメラには交換レンズばかりでなく、フィルター、コンバーターなどのアクセサリーも豊富に揃っていますので、撮影に変化をつけることができます。そこでこうしたレンズやアクセサリーのポイントを、風景写真を撮影する場合と、接写の多い草花の撮影をする場合とに分けて挙げてみます。

風景写真を中心とする場合

●レンズ　ズームレンズが圧倒的に有利です。広い景色を撮る機会が多いので、28～70mm、70～200mmの2本を用意しておくと、ほとんどの条件をカバーできます。

●フィルター　青味（紫外線）をカットするUVフィルターと、色彩のコントラストを高めるPLフィルターは常備しておくとよいと思います。この2枚のフィルターは風景写真をシャープにしてくれますので、まだ使用したことのない方は、ぜひ一度利用してみてください。特にUVフィルターは常用としてもいいでしょう。

●ストロボ　逆光で撮影する場合、あるいは花や枯れ木などを前面に、大きくダイナミックに入れて撮影しようとする場合などに、しばしばバックが明るすぎることがあります。こうしたときの補助光としてストロボを用いますが、カメラに内蔵されているのであれば、特に用意する必要はありません。

●三脚　どのような撮影を行う場合にも、三脚は常に持参するようにしましょう。三脚があれば、シャッタースピードを遅くしても安心ですし、望遠レンズを使用した場合に手ブレを気にすることもありません。

三脚は重いので敬遠したい方には、一脚のご利用をお勧めします。三脚にはかないませんが、手持ちで撮影するよりは、はるかに安定した撮影を行うことができます。

フィルター未使用

ケンコーMC UVフィルター使用／UVフィルター1枚が写真に差をつける

草花を中心に撮影する場合

●レンズ　花畑のように、広い範囲に群生する花の全体を撮影するのでしたら、風景と同じズームレンズでいいのですが、小さな花の一つに近づいて撮影したい、いわゆる接写を行う場合、できればマクロレンズを用意した方がいいでしょう。大口径の単体レンズが理想的で、風がある時にも速いシャッターを切ることができます。50mm前後の標準のものでもいいのですが、バックのボケを強調したい場合には、100mm前後の中望遠レンズが適しています。マクロレンズは通常のレンズとして使用することもできますので、あれもこれも撮影したいという欲張りな方には便利なレンズです。

●三脚　景色とは異なり、草花は地面にありますから、低い位置で撮影できるローアングルが可能なものを選ぶようにしてください。アングルを素早く、スムーズに変えられるものが有利です。

●その他のアクセサリー　接写の場合にはカメラのボディにあるシャッターボタンが押しづらくなる場合もありますので、レリーズがあると便利です。レリーズはスローシャッターにも必要となります。また、通常のレンズに装填するだけでクローズアップ撮影を可能にするクローズアップレンズや接写リングは、ポケットに入りますので携帯が苦になりません。レンズとカメラの本体の間にセットすることで、撮影距離を短縮したり、望遠効果が出せるテレコンバーターも便利です。

野山を歩く場合には、カメラバッグは背負うタイプのものを選ぶとよいでしょう。レンズ交換やアクセサリーをセットする場合などに、いちいち背中から下ろさなければならない手間はありますが、手が自由になる便利さは余りあるものがあります。小型アクセサリーやフィルムが入るウエストバッグも用意しましょう。

フィールドではフィルムや電池を入手するのが困難ですので、予備を持参するようにしてください。また、山や高原地帯では天候が変わりやすいので、簡単な雨具も必ず用意するようにしましょう。不慣れな土地ならば地図や懐中電灯なども揃えておきましょう。

また、撮影した地点や被写体の状態などを記録しておく、メモ帳をポケットに忍ばせておけば、撮影がより一層思い出深いものとなるでしょう。

野山を少し歩けば、日本には美しい自然がまだまだ豊富に残っていることに気がつくことでしょう。くれぐれも、素晴らしい写真が撮りたいという気持ちだけを先走らせて、足下の自然を踏みにじるようなことだけは避けてください。たとえどんなに小さなものであっても、それは厳しい冬を耐えて、やっと芽吹きはじめた小さな命なのだということを、忘れないでください。

リコーカメラお客様相談窓口　リコーカメラについてご意見・ご希望がございましたら下記までご連絡ください。
〒104　東京都中央区銀座6-14-7　株式会社リコー　パーソナル事業部
0120 FreeDial 0120-007962
●受付時間　月曜から金曜／9:30～18:00　土曜／9:30～15:00
●日曜・祝日はお休みさせていただきます。

薄型ボディ・高倍率130mmズーム

このクラスの常識を破る46mmの超薄型ボディに、ミューならではの美しいデザインを踏襲。レンズの全てにガラスレンズを使用。更に光学ガラス非球面レンズとハイブリットレンズを採用し、高精度のマルチパッシブAFとのベストマッチングによりシャープな写りを実現。

高倍率ズームに対応する大光量の新型フラッシュも搭載。もちろんオリンパス独自の生活防水付です。

μ[mju:]ZOOM 130

希望小売価格(税別)
¥62,000(リモコン・ケース・ストラップ付)

ひろびろ撮れる便利な
ミューズームワイド80登場
3月発売。

ちゃんと調べて、ミューにした。

SIGMA

OUR WORLD

自然の創造力は、人間の想像力を超えていた。マレーシア、熱帯雨林。

海野和男:1947年東京に生まれる。東京農工大学で昆虫行動学を学ぶ、卒業後フリーの昆虫カメラマンとなる。国内だけでなく、アジアやアメリカの熱帯雨林で自然科学写真を撮り続けている。

撮影データー:105mm F2.8 EX MACRO、1/250秒 ストロボ使用 F11.5

海野和男が世界を撮ったとき、手にしていたレンズはシグマだった。

密林の中で、ふと何かが動いた。目を凝らすと、枯れ葉そっくりのカマキリがいた。この自然の造形の妙を捉えたのはシグマ。シャープな描写力が魅力、と海野氏。無限遠から等倍撮影まで高い描写性能。歪曲収差も完璧に補正。直進式焦点合わせ機構とネジ込み式フード採用でPLフィルターの使用も容易。焦点深度の深い絞り採用で、撮影意図に応えるマクロ。

ネーチャーフォトからポートレートまで、幅広い領域をカバーする操作性に優れたマクロ。

SIGMA Macro Lenses

お問い合わせは、株式会社シグマ 〒201-8630 東京都狛江市岩戸南2-3-15 tel.03(3480)1431まで。

NEW

105mm F2.8 EX MACRO

●AF・MF希望小売価格(税別):
57,000円、ケース・フード付
シグマSA用、キヤノンEOS用、ニコン用 新発売
ミノルタ用、ペンタックス用 '98年3月発売

フジカラー リアラエース&プロピア

第6回 全国 秋の彩 カメラのキタムラ フォトコンテスト

入賞作品発表！

フォト ネットワーク カメラのキタムラ

応募総数 約15,000点

第6回「全国秋の彩フォトコンテスト」に、今年もたくさんのご応募ありがとうございました。約15,000点の応募総数の中から見事に入賞された方々の作品を、ここに発表させていただきます。

主催：カメラのキタムラ
協賛：富士写真フイルム株式会社
キヤノン販売(株)、ミノルタカメラ販売(株)、ニコンカメラ販売(株)、ペンタックス販売(株)、オリンパス販売(株)、京セラ(株)、(株)リコー、(株)シグマ、(株)タムロン、トキナー光学(株)

総評： 今回は特に応募作品数が多かった分、最終選考では本当に甲乙つけがたい作品が残りました。第6回を迎えて応募者の皆さんの力も蓄積され、それが作品に反映されていたのが今回の大きな特徴でした。昨秋は、地域によっては紅葉の色づきが芳しくなく、作品創りへの影響が懸念されましたが、結果としてこれだけの良い作品が集まったことをうれしく思います。

審査員　竹内敏信氏

1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒業。愛知県庁勤務を経てフリーとなり、風景写真の第一人者として活躍。主な写真集：『天地光響』（講談社）、『花祭』（成文堂新光社）、『写真・山頭火』（春陽堂）、『櫻』『天地聲聞』（以上出版芸術社）、『竹内敏信集』（新日本企画）など。

審査風景

グランプリ 全部門共通 賞金30万円と楯〈1名〉

「命秋」
小林 泉
（北海道函館市）

寸評： どっしりとした二本の幹と、その幹から枝を広げているカエデの紅葉を、実に鮮やかに、そして力強くとらえた作品です。また紅く染まった葉のさらに上方には秋の日差しが感じられ、日本の秋の彩りを的確に引き出しています。

こばやし いずみ
1932年北海道生まれ。12年の写真歴を持ち、現在は函館市内の写真サークルに所属。函館近郊のほか美瑛や富良野など、道内の美しい風景を撮り続ける。以前にもキタムラの全国桜前線・紅葉前線フォトコンテストなどで3回の入賞実績をもつ。

特選 賞金20万円と楯

リバーサルプリント・紅葉の部〈2名〉

「曲沢沼の朝」有賀由一（神奈川県横浜市）
紅葉の実像と湖面の鏡像が不思議な風景を醸し出しています。

「紅葉の舞」髙岸康子（愛媛県西条市）
谷川を流れる紅葉を低速シャッターで美しくとらえています。

ネガカラープリント・紅葉の部〈2名〉

「幸兵衛の滝」阿部 孝（埼玉県鶴ヶ島市）
滝の流れと周囲の樹林の紅葉を、実にうまくとらえています。

「秋彩」西山 勤（熊本県熊本市）
逆光により、シンプルな中にも紅葉の輝きを表現しています。

リバーサルプリント・一般の部〈2名〉

「秋風」津川隆一（千葉県茂原市）
風の感触を楽しむ女性を、いきいきと美しくとらえています。

「棚田の秋」梅丸祐司（福岡県田川市）
年々少なくなる棚田の風景を斜光線で美しくとらえています。

ネガカラープリント・一般の部〈2名〉

「秋雨」古平文男（北海道三笠市）
秋雨が醸し出す空間に、情感豊かな雰囲気を持たせています。

「エピローグ（EPILOGUE）」丸山浩一郎（静岡県浜松市）
夕日とバッタを象徴的にとらえて心象世界を創出しています。

準特選 賞金10万円と楯

リバーサルプリント・紅葉の部〈4名〉

「秋紅美」木村健次（奈良県橿原市）

「秋の稜線」杉田富男（奈良県大和郡山市）

「初冠雪」溝口 敦（福岡県筑紫野市）

「落葉」賀来清一（大分県中津市）

ネガカラープリント・紅葉の部〈4名〉

「満樹」金泉隆行（北海道苫小牧市）

「光彩」中畑俊雄（宮城県仙台市）

「黄紅葉」我妻典明（栃木県塩谷郡）

「秋景」片岡正志（岡山県吉備郡）

リバーサルプリント・一般の部〈4名〉

「コスモス」広木幹夫（群馬県伊勢崎市）

「秋日和」野呂幸樹（三重県四日市市）

「木もれ日の中で」髙木 寿（福岡県粕屋郡）

「池塘秋彩」小野直樹（熊本県菊池郡）

ネガカラープリント・一般の部〈4名〉

「コスモス」城所 實（埼玉県入間郡）

「冬に向いて」加賀美 一（石川県金沢市）

「ざくろ」田辺 明（岡山県苫田郡）

「餌探し」広田和夫（山口県宇部市）

審査員特別賞 全部門共通 賞金3万円と楯〈10名〉

「熊沼秋景」小畑一弘（岩手県一関市）

「晩秋の影」佐藤孝子（岩手県水沢市）

「唐松紅葉」松下健二（長野県長野市）

「秋の寺」安井善行（奈良県北葛城郡）

「残照」川口正雄（奈良県奈良市）

「落葉」鳥井原 博美（愛媛県新居浜市）

「秋の田園」田中正司（山口県萩市）

「女 VI」鍋島幸義（岡山県津山市）

「光景」宮崎啓一（福岡県福岡市）

「二人」田中富美穂（熊本県八代市）

入選 賞金1万円と楯

リバーサルプリント 紅葉の部〈40名〉

北海道
岡村文人（帯広市）「紅葉まっさかり。」
吉田 茂（赤平市）「彩の沼」
神谷隆行（旭川市）「朝光」
山形県
淀野正実（東置賜郡）「晩秋の吾妻」
福島県
田中穂積（伊達郡）「秋涼」
新潟県
佐藤幸助（三条市）「山里の秋」
小松一広（新井市）「秋の妙高」
しがの文子（上越市）「収集」
藤井今朝美（中頸城郡）「盛秋」
中野賢司（新潟市）「紅葉の流景」
富山県
田中真一（富山市）「大雪盛秋」
福井県
島邑 博（福井市）「秋の空」
千葉県
平山新一（旭市）「小田代ケ原秋景」
埼玉県
佐野秀夫（入間郡）「黄金舞う」
東京都
相川 誠（練馬区）「燃ゆる赤と富士河口湖」
戸田和宜（江東区）「清流の織物」
渡辺 守（板橋区）「錦秋」
神奈川県
境 実（相模原市）「染まる山稜」
福田 伸（伊勢原市）「鳥沼の輝き」
群馬県
中島広美（桐生市）「谷の音色」
愛媛県
岡本一志（伊予市）「もみじ満天」
徳永幸紀（松山市）「錦紅」
滋賀県
岡垣 進（栗太郡）「山彩る」
大阪府
澄川眞直（堺市）「谷の紅葉」
出宮史朗（寝屋川市）「幻想の滝」
間部友幸（寝屋川市）「三門燃ゆ」
髙崎三枝子（柏原市）「ゆく秋」
兵庫県
笹野義一（加古川市）「映える」
三重県
佐藤忠嗣（四日市市）「晩秋模様」
久米文人（津市）「姉妹」
岡山県
萩原秀政（倉敷市）「落葉」
三上弘三（倉敷市）「雪化粧」
横山敏志（倉敷市）「秋影」
岡﨑義昭（岡山市）「錦彩」
島根県
小田原 稔（松江市）「晩秋」
徳島県
岩﨑光司（板野郡）「霧の原生林」
山口県
柏村晴男（小野田市）「秋霜」
長崎県
前田達朗（諫早市）「流れ星」
熊本県
木村達郎（熊本市）「黄色い絨毯」
鹿児島県
吉元裕二（曽於郡）「ドウダンの紅葉」

リバーサルプリント 一般の部〈40名〉

北海道
小池正一（釧路市）「朝モヤの湿原」
山形県
渡部武三（山形市）「秋の神事」
宮城県
森 涼一（角田市）「落葉仮面」
福島県
菅野勝人（郡山市）「わが家のマユミ」
森 次雄（伊達郡）「COSMOS−小宇宙−」
新潟県
坂井昭二（新潟市）「朝露」
福本清彦（新潟市）「秋興」
酒井義仁（中頸城郡）「晩秋」
富山県
野島迪雄（富山市）「幻想」
埼玉県
村田久夫（板戸市）「日の出」
西村 満（日高市）「無題」
群馬県
金子周二（勢多郡）「里の秋」
山梨県
尾﨑清輝（南都留郡）「朝開け」
愛知県
兼井成夫（豊橋市）「秋の舞い」
京都府
清水博一（京都市）「キヌガサダケ」
大阪府
丸山トシコ（吹田市）「宇宙遊泳」
奈良県
橋本 修（大和高田市）「晩秋」
北 好雄（吉野郡）「ふる里の山柿」
三重県
山内則義（四日市市）「秋風」
宮崎正秀（名張市）「落葉舞う」
西村 修（多気郡）「秋日」
岡山県
岡﨑順子（岡山市）「初冬の彩」
大枝舜二（岡山市）「花園の朝」
増井裕子（岡山市）「山峡の棚田」
大野和子（都窪郡）「実りの秋」
広島県
樋野村 孝（広島市）「晩秋の原」
愛媛県
秋山久信（東予市）「ボートレート」
福岡県
百﨑礼治（福岡市）「彼岸花の里」
上野正六（福岡市）「紅葉浮遊す」
和田善助（太宰府市）「光彩」
片村彰男（北九州市）「ヒヨドリ」
山口 清（中間市）「渓谷を行く」
毛利高就（田川郡）「ロータリー」
寺坂義孝（粕屋郡）「柴ススキ」
大分県
武内 誠（日田市）「秋の分校」
長尾 司（日田市）「夕暮れの輝き」
熊本県
大坪政男（熊本市）「茶会」
草野政盛（鹿本郡）「森林のコスモス」
黒瀬博恭（熊本市）「黄色いじゅうたん」
酒井憲隆（玉名市）「朝食」

ネガカラープリント 紅葉の部〈20名〉

北海道
坂本富美好（函館市）「一枝の秋」
福島県
山川進一（福島市）「滝」
今泉和蔵（郡山市）「時雨の湖畔」
佐藤 弘（西白河郡）「秋の雪」
埼玉県
井口正夫（草加市）「初秋」
神奈川県
古都和敏（茅ヶ崎市）「小さな秋」
群馬県
福田高史（高崎市）「秋色」
関口 茂（佐波郡）「古都の秋」
長野県
町田とみ子（上田市）「小川の秋」
静岡県
根木由一（浜松市）「読書の秋に」
京都府
荒井俊明（福知山市）「晩秋」
兵庫県
大戸正和（三田市）「空に浮かぶ紅葉」
山口県
坂田正和（山口市）「雨あがりの光景」
香川県
石川満雄（三豊郡）「黄色い道」
岡沢浄休（木田郡）「秋色」
高知県
田村善穂（高知市）「秋色」
愛媛県
乗松賢二（松山市）「光景」
梅原都志光（松山市）「もみじがり」
福岡県
伊福和雄（北九州市）「秋の朝」
今里正信（北九州市）「この木、なんの木」

ネガカラープリント 一般の部〈20名〉

埼玉県
巻島秀男（久喜市）「落葉模様」
東京都
大鴻勝美（豊島区）「晩秋の散歩道」
神奈川県
高橋元哉（横浜市）「反映の落葉」
群馬県
中島真一（太田市）「朝霧」
大岡雅人（高崎市）「小さな秋」
静岡県
鈴木信子（周智郡）「苦瓜のうらなり」
愛知県
種井武朗（豊橋市）「水溜まり」
大阪府
桝田茂治（大阪市）「庭の一時」
金子弥寿光（和泉市）「秋のなごり」
奈良県
大西康夫（奈良市）「秋陽」
三重県
渡辺充正（鈴鹿市）「粟実る秋」
米田靖司（津市）「秋の風物詩」
岡山県
山下忠雄（岡山市）「秋桜の彩り」
津島善秋（和気郡）「秋の一日」
徳島県
岩﨑英昭（板野郡）「彼岸花」
愛媛県
井上 昭（松山市）「たね」
明賀 修（松山市）「輪舞」
日野 尚（伊予郡）「花とカマキリ」
福岡県
満尻和幸（久留米市）「収穫の頃」
熊本県
遠山節雄（熊本市）「風に舞う」

キタムラホームページ　http://www.kitamura.co.jp/
※上位入賞作品は、キタムラホームページ上でもご覧いただけます。

中判カメラ特集

ここ数年の間に、初心者でも手軽に使える機種が続々と発売され、
ユーザーの増加が目立つ中判カメラ。
今回は、鮮鋭な画像とリアルな色彩を描写できる中判カメラを取り上げました。

ペンタックス645Nで撮影

カメラはボディそのものの大きさで大型・中型・小型と分類されているのではありません。撮影するフィルムのフォーマット（判・大きさ）で分類されています。このフィルムのフォーマットが大きければ大きいほど、写真になった時に粒子の細かい画像が得られるのです。

フィルムサイズの差が優れた描写力を実現

一般的なロールフィルムタイプの画面サイズは110（13×17㎜）、35㎜（24×36㎜）、6×4.5（45×60㎜）、6×6（60×60㎜）、6×7（60×70㎜）、6×8（60×80㎜）、6×9（60×90㎜）となっていますが、6×4.5サイズ以上のプロニーフィルム（120、220サイズ＝呼称の違いは長さを表す）を使用するカメラが中判カメラと呼ばれています。

このプローニーサイズを面積で35㎜フィルム（8・64㎠）と比較してみますと、6×4.5では約3倍（23・24㎠）、6×7では4.5倍（38・92㎠）となります。このフィルムサイズの違いが写真になった時、画像のキメ細かさ、ディテールの描写力、質感・臨場感の差となって現れます。

35㎜感覚で使えて機種も豊富

このようにきれいに撮れるということで、プロカメラマンは好んで中判カメラを使用しています。また中判カメラは「大きい」「重たい」「操作が面倒」と思われがちですが、それはひと昔前までの話で、現在では35㎜一眼レフを使うような感覚で撮影できる中判カメラが増え、種類も豊富になっています。マニュアル撮影の知識がないと撮影が難しい中判カメラもありますが、6×4.5判なら一眼レフとレンズシャッター、さらに両者のメリットを活かしたレンズシャッター式一眼レフなどのタイプがあり、オートフォーカス化された機種も出ていますから、中判カメラの入門機としてふさわしいでしょう。

■レンズ交換が容易な一眼レフタイプ

一般的にレンズ鏡胴内にシャッターがなく本体側にシャッター機能を保持しているので、シャッターがレンズの制約を受けることもなく、レンズ交換を容易にしています。望遠や広角レンズを積極的に使う撮影に向いています。ただしストロボ同調のシャッタースピードが、35㎜一眼レフに比べて遅くなる傾向があります。

上は6×4.5判、下は35㎜で撮った写真。鮮明度に違いが出ているのがわかる。

■ストロボに全速同調のレンズシャッタータイプ

レンズ鏡胴内にシャッターがあり、ストロボは全速で同調します。また一眼レフタイプと比較すると、概してレンズ価格が高いという傾向があります。しかし、35㎜のレンズシャッターをそのまま大きくしたようなものですから、速写性に優れて扱いやすく、入門機としては最適です。

こうしたことを踏まえ、今まで35㎜カメラしか使ったことのない皆さんも、ぜひ中判カメラでの撮影にチャレンジして、写真の楽しみを一層広げてみてはいかがでしょう。

［6×4.5判カメラの仕様比較表］

品名	ペンタックス645N	フジGA645i	マミヤ645PRO TL	ブロニカETR Si
形式	一眼レフ	レンズシャッター	一眼レフ	レンズシャッター式一眼レフ
実質画面サイズ(mm)	56×41.5	56×41.5	56×41.5	55.1×42
焦点調節	AF／MF	AF／MF	MF	MF
露出モード	プログラム シャッター優先 絞り優先 マニュアル	プログラム 絞り優先 マニュアル	マニュアル 絞り優先 （ファインダーによる）	マニュアル 絞り優先 （ファインダーによる）
露出計	6分割測光 スポット測光 中央重点測光	中央重点測光	中央重点測光 （ファインダーによる）	スポット測光 平均測光 （ファインダーによる）
シャッター	フォーカルプレーン	レンズシャッター	フォーカルプレーン	フォーカルプレーン
シャッタースピード	B.30～1/1000秒	B.2～1/700秒	B.8～1/1000秒	B.8～1/500秒
レンズ交換	可能	不可	可能	可能
フィルム途中交換	不可	不可	可能	可能

中判カメラ特集

6×4.5判

小型・軽量ながら高画質を追求

ペンタックス645N

AFをはじめとする新機能に加え、ダイアル方式を採用。35mmAF一眼レフと変わらない機動性と操作性を実現し、プロが求める高画質を追求した6×4.5判カメラ。

【特長】

1. ペンタックス独自の高精度AFシステム
ハイレベルなフォーカシングの実現により、横方向のラインをもつ被写体にも正確なピントが得られます。さらに撮りたい構図に合わせてフォーカスエリアの切り替えが可能な3点スポットAFモードを搭載。

2. 露出モードは4種類
35mm一眼レフでは一般的な「絞り優先」「シャッター速度優先」「プログラム」「マニュアル」などの露出モードを搭載しているので、難しい露出補正も容易です。

3. ファインダー内に撮影情報を集約
シャッター速度、絞り値などをファインダー内で見やすく表示しているので、集中して撮影が行なえます。

●メーカー希望小売価格（税別）300,000円（ボディのみ）

中判カメラ入門機の決定版

フジGA645i／GA645Wi プロフェッショナル

フォーカシングのAF化をはじめ、使いやすさを徹底的に追求したGAシリーズに、フィルムの感度や種類を自動的に読み込む世界初のバーコードシステムを採用。

【特長】

1. ハイブリッドAFを搭載
被写体や周囲の状況によって、2つの異なるAF機構を自動的に使い分けます。赤外線アクティブ方式のAFは、暗い被写体や近距離に威力を発揮。またパッシブ方式のAFは、特に遠距離で精度の高いフォーカシングが可能です。

2. 高性能レンズで大画面の醍醐味
EBCフジノンレンズの採用により、解像力抜群の画像が得られます。

3. 徹底的に使いやすさを追求
フィルムにもバーコードを導入したことにより、「フィルム感度」「120/220ロールの識別」「フィルムの種別」などの読み取りが可能になり、使用フィルムの間違いが防げます。またイージーローディングでフィルム装填も飛躍的に易しくなりました。

●メーカー希望小売価格（税別）
GA645i：f=60mm 1:4.0（35mm判 f=37mm相当）付き160,000円
GA645Wi：f=45mm 1:4.0（35mm判 f=28mm相当）付き170,000円
いずれも単焦点固定式レンズ

本格派向けのシステム構成

マミヤ645PRO TL

6×4.5サイズでありながら6×7や6×9と同様のシステムを構築し、多様な写真表現を可能にしています。フィルムホルダー・ファインダー・ワインダー・レンズがすべて交換できる、システムを重んじた設計。マミヤならではのノウハウが随所に盛り込まれた、本格派向けの中判カメラです。

【特長】

1. テーマや撮影スタイルに応じたシステムを構成
22本の交換レンズ、4タイプのファインダー、4タイプのフィルムホルダー、2タイプのワインダーグリップほか、数多くのアクセサリーをラインナップ。写真のテーマや撮影スタイルに応じて使い分けられます。

2. ストロボTTLダイレクト測光を採用
メッツ・メカブリッツ・ストロボとSCAアダプターとのセットにより、煩わしい計算から解放。絞り設定や被写界深度を考慮した撮影が思いのままです。

3. ファインダー交換システムは4タイプ
自動露出での撮影には、絞り優先の平均測光と部分測光の2タイプ。またマニュアル撮影もでき、撮影目的や光の状態に合わせて選ぶことができます。

●メーカー希望小売価格（税別）110,000円
（ボディのみ／フィルムホルダー・ファインダー別）

高品質と機動性の融合

ブロニカETR Si

撮影者のイマジネーションを大切にした表現を追求する一方で、高品質と機動性を重視した設計により、撮影領域を一段と広げています。

【特長】

1. 中判ながらコンパクトな設計
中判カメラでありながら小型・軽量化を図るとともに、撮影時の制約を極力抑え、操作性の向上を追求しました。

2. レンズシャッター式一眼レフの採用
レンズシャッターと一眼レフそれぞれの良さを融合させることにより、多様な映像表現を実現。ミラーアップ機構の装備により、スローシャッター・接写・望遠などでも繊細な描写が可能です。ストロボもシャッター全速に同調、ダイレクト測光も可能にしています。

3. ファインダーとフィルムバックが交換可能
ウエストレベル・ローアングルでの撮影など状況に応じてファインダーを交換できます。また、スポット測光と平均測光もファインダーによって選択できます。さらに画面サイズや撮影目的に応じてフィルムバックも交換でき、多彩な表現を可能にします。

●メーカー希望小売価格（税別）81,000円
（ボディのみ／フィルムバック・ファインダー別）

中判カメラ特集

6×6判

縦・横自在のスクエアサイズ

ブロニカSQ-Ai

縦・横位置とも同じホールディングで素早く撮影できる6×6判の速写性を活かしたカメラ。速いシャッターチャージを実現した巻き上げクランクの採用、スピーディーなフィルム交換など、随所に工夫がなされています。

【特長】

1. 機動性に優れたフィルムバック
撮影途中でもフィルムをワンタッチで交換でき、二重撮り・空送りなどのミスを防ぐ安全装置も完備。

2. 速写性を追求したモータードライブ
小型・軽量のモータードライブ(別売り)は1コマ撮影、連続撮影、リモートコントロール撮影にも対応し、一瞬のシャッターチャンスも逃しません。

3. 操作性能を高めたファインダー内情報
測光や露出の状態をはじめ、撮影に不可欠な情報がファインダー内に分かりやすく表示されます。

4. 便利な感度ダイヤル付フィルムバック
露出計内蔵ファインダーと連動する、フィルム感度設定ダイヤル及び露出補正ダイヤルが装備されたフィルムバック(別売り)を使用すれば、感度の異なるフィルムと交換しても感度設定を変える必要がなく、ミスを防げます。

●メーカー希望小売価格(税別) 131,000円
(ボディのみ/フィルムバック・ファインダー別)

6×7判

先進機能と堅牢性を兼備

ブロニカGS-1

6×7判一眼レフタイプの中でも小型・軽量で、35mmと同様の機動性を保持しています。レンズ・ファインダー・フィルムバック・フォーカススクリーン・グリップにいたるまで高度な交換システムを採用。あらゆる撮影条件に対応できます。

【特長】

1. シャッターチャンスに敏速対応
独自のスイングバックミラーは、瞬時に合理的な軌道を描いてアップする無駄のない方式。望遠レンズでもミラーがスピーディに作動し、シャッターチャンスを逃しません。

2. TTLフィルム面ダイレクト測光を採用
露出精度が高いTTLフィルム面ダイレクト測光によるストロボ自動調光が可能です。被写体からの反射光だけを測光するため、露出は極めて正確です。

3. 縦・横自在のレボルビングシステム
接写や風景撮影などでの三脚使用時に、別売りのアダプターを付けることにより、画面の縦位置・横位置が自由に変えられます。

4. 超精密なレンズシャッター制御
高精度制御機構により、レンズシャッターの精密なコントロールを行ないます。

●メーカー希望小売価格(税別) 130,000円
(ボディのみ/フィルムバック・ファインダー別)

プロユースに応える機動性と操作性

ペンタックス67

35mm一眼レフと相似形のフォルムにより、優れた操作性・機動性を実現。4種の交換ファインダーや精密な電子制御式フォーカルプレーンシャッターなど高度な機能により、スタジオからフィールドまで幅広い撮影に対応できます。

【特長】

1. 交換フォーカシングスクリーンを採用
プロユースにも的確に応えるため、5種類のフォーカシングスクリーンを用意し、あらゆる撮影に十分な機能を発揮できるシステムを構築。撮影用途に応じて最適なスクリーンを選択できます。

2. 優れた平面精度で高度な撮影に対応
35mm一眼レフと同様にロールフィルムをゲートに送り出し、撮影後もそのまま巻き取れる方式を採用。優れた平面精度により高度な撮影にも対応できます。

3. ショックの少ないスイング式ミラー
クイックリターンミラーは35mmの4倍の面積ながら、そのショックは非常に小さく、100%の視野率を確保しています。

4. 120から220の切り替えもワンタッチ
ブローニーフィルム120では10枚、220なら20枚の撮影が可能。切り替えはダイヤルを合わせるだけのワンタッチです。

●メーカー希望小売価格(税別) 170,000円
(ボディのみ/ファインダー別)

あらゆる撮影分野で高機能を発揮

マミヤRB67プロフェッショナルSD

高い評価と信頼を得たマミヤRBの伝統を受け継ぐ、機械制御レンズシャッター方式の6×7判一眼レフ。一般撮影はもちろん、広告や営業写真など、あらゆる分野でその高い機能を発揮しています。

【特長】

1. 大型レンズマウントを採用
ケラレがなく高精度・高性能を実現する、大口径レンズにも対応した大型のレンズマウント設計。撮影領域をいちだんとアップさせています。

2. 豊富な交換レンズ
広角・標準・望遠はもちろんのこと、フィッシュアイ・マクロ・ソフト・シフト・ズームなど、精度の高い豊富なレンズ群が、撮影者のイメージ通りの描写を実現します。

3. 機能性の高いレボルビング機構
カメラを構え直すことなく、フィルムホルダーを回転させるだけで、画面の縦位置・横位置を自由に変えられます。

4. 接写に強い蛇腹機構
蛇腹繰り出し機構により、高倍率の近接撮影が容易にできます。画面周辺の収差を最大限に補正できるレンズ群も豊富に取り揃えています。

●メーカー希望小売価格(税別) 119,000円
(ボディのみ/フィルムホルダー別)

プロの感性を具現化するカメラ

マミヤRZ67プロフェッショナルII

電子制御レンズシャッター搭載の6×7判一眼レフ。プロの多様なこだわりや感性に応え得る設計がなされています。

【特長】

1. 中間シャッタースピードが設定可能
1/400～8秒のシャッターポジションのうち、1/250～4秒の間で中間設定が可能。被写界深度を変えずにデリケートな露出の違いを表現します。

2. 蛇腹繰り出し焦点調節
「ラックピニオン式蛇腹繰り出し焦点調節」は繰り出し量が46mmと大きく、無限遠から最短撮影距離までフォーカシングが広くとれます。

3. ストロボ全速同調が可能
電子レンズシャッターによりシャッター速度を高度に制御しながら、ストロボ撮影には高速1/400秒までの全速で同調します。

4. 各種交換システムで撮影領域を拡大
フィルムバックとファインダーがシステム的に交換可能。これによりAE機構をもたせたり、撮影目的に合わせたシステム交換ができます。

●メーカー希望小売価格(税別) 157,000円
(ボディのみ/フィルムホルダー別)

手持ち撮影もできる6×7判カメラ

マミヤ7

6×7判のフォーマットをもつレンジファインダーカメラでありながら、手持ち撮影も容易です。超広角43mmから望遠150mmまで4本の交換レンズを揃え、絞り優先AEも搭載しました。

【特長】

1. 高精度測光の絞り優先AE
広角系レンズではスポット測光寄りに、また望遠系では平均測光寄りとなります。AE自動露出モードは使用頻度の高い絞り優先。逆光時や背景変化に対応したAEロック撮影も可能です。

2. 適正な露出補正を迅速に指示
晴天・雪景色・逆光などでの難しい露出に対応して、+2～−2EVの間で細かく補正できるように、1/3ステップごとに便利なクリックが付いています。

3. 明るいファインダー
使用するレンズに関わりなく、ファインダーで撮影対象を明瞭に確認できます。

4. 正確で静かなレンズシャッター
高精度電子レンズシャッターは秒時変化が極めて少なく、正確なシャッター速度制御を実現しています。シャッターボタンはソフトタッチの電磁レリーズで、シャッター音も小さく静かです。

●メーカー希望小売価格(税別) 173,000円
(ボディのみ)

中判カメラ特集

6×9判／6×8判

コンパクトなボディで高画質を実現

フジGW690Ⅲ／GW680Ⅲ GSW690Ⅲ／GSW680Ⅲ

高画質が得られる6×9判・6×8判のビッグフォーマット。さらにブローニーフィルムとEBCフジノンレンズの組み合わせにより、ワンランク上の美しい描写を実現します。（GW690ⅢとGW680Ⅲは画面サイズが異なるだけで、仕様はほぼ同じです。また、広角タイプのGSW690ⅢとGSW680Ⅲもあります。）

【特長】

1. 高精度なレンジファインダー
フォーカシングは確実で素早いピント合わせが可能な二重像合致式。パララックス補正は撮影距離に応じて自動的に行なわれ、優れた速写性を発揮します。

2. 信頼性の高いメカニカルシャッター
堅牢性・耐寒性に優れ、アウトドアロケにも安心して使えます。

3. 抜群のホールディング
機動性を考慮したオーガニックフォルムを採用。グリップ部にラバー素材を使用することで、優れたホールディング感を実現しています。

●メーカー希望小売価格（税別）
GW690Ⅲ：f=90mm 1:3.5（35mm判 f=39mm相当）付き179,000円
GW680Ⅲ：f=90mm 1:3.5（35mm判 f=42mm相当）付き179,000円
GSW690Ⅲ：f=65mm 1:5.6（35mm判 f=28mm相当）付き197,000円
GSW680Ⅲ：f=65mm 1:5.6（35mm判 f=30mm相当）付き197,000円
いずれも単焦点固定式レンズ

6×17判

ダイナミックなパノラマを実現

フジ パノラマGX617

ブローニーフィルムを用いて6×17判のラージフォーマットによるダイナミックなパノラマ写真が撮れます。交換式のレンズ群も超広角から望遠までラインナップされ、撮影の意図や条件に合わせてフレキシブルに選択可能。ハードな状況にも耐えるタフネスさと、撮影に集中できる優れた操作性を兼ね備えています。

【特長】

1. 取りはずし可能なファインダー
持ち運ぶ時はファインダーをはずし、撮影場所で取り付けることが可能。雄大な風景もパノラマサイズの視野で確認できます。また、明るく見やすい高倍率設計、そして水平・垂直を容易に保てるブライフレーム付きの高視野精度カメラです。

2. タフなボディとレンズユニット
ボディを強度の高いポリカーボネートで覆うとともに、レンズもゴムを巻いたアルミ製プロテクターで保護し、耐ショック性には万全を期しています。

●メーカー希望小売価格（税別）315,000円（ボディのみ）

6×6判

信頼の高い耐久性と操作性

ハッセルブラッド503CW

高性能モータードライブの搭載を意図した設計にも関わらず、すべて作動は機械式で、カメラ本体には電池を使用しません。新登場のワインダーとの組み合わせで、6×6判の優れた画質に加えて操作性の良さが一段と高まりました。

【特長】

1. 先端をゆくカメラシステム
300アイテム近い各種アクセサリーを揃え、その組み合わせによって用途に適した機能が得られる、世界で最も進化した中判カメラの決定版。最高の品質が絶対条件とされる撮影の要求にも応えます。

2. ワインダーCWは4モード
モータードライブ機能のほか1コマ撮影・連続撮影・多重露出・リモコンの4種類のモードを擁し、カメラの安定性も抜群です。

3. 世界最高峰のレンズ群
30～500mm 14本のCFシリーズレンズ群は、世界のトップをゆくカール・ツァイス。利便性の高いズームレンズ・シフトコンバーター・テレコンバーターなども充実しています。

●メーカー希望小売価格（税別）255,000円（ボディのみ）

フォトライフ四季 ふれあい広場

読者の皆様から寄せられた、お便り＆お写真をご紹介いたします。

フォトコーナー●●●

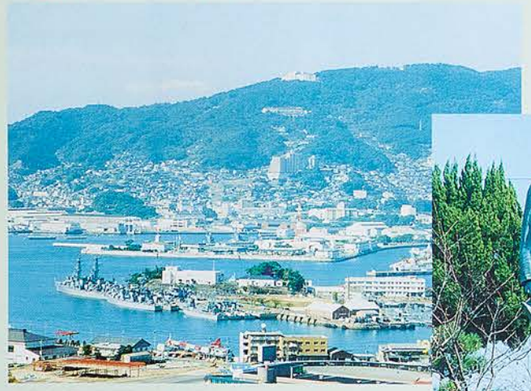
マザー牧場へ行った時に、どうしてもコスモスの花に囲まれたくて、子供と2人で撮ってもらった一番お気にいりの写真です。

林 由香様　神奈川県秦野市

鈴鹿・白子店付近でのスナップです。公園の一角に「日時計」を設けるとは、シャレてますね。

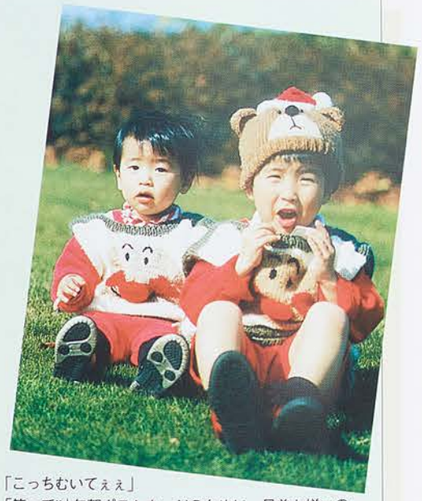
磯部裕史様　三重県四日市市

お便りコーナー●●●



平成4年頃、佐世保の東山海軍基地に銅像ができました。明治時代の人ですが、東郷平八郎元帥の像です。それを僕のカメラでパチリ! そしてもう一枚は、佐世保港を写しました。きれいな港にきれいな船が出たり入ったり。真上にはホテル。西を見れば九十九島。ながめが良いので誰もがここに上りたがります。

松本鉄麿様　長崎県佐世保市



「こっちむいてぇぇ」
「笑って!!」年賀ポストカードのために、兄弟お揃いのベスト着て。撮影会のショットがなかなか決まらず、フィルム3本目を入れたばかり。ママの大声ばかりが晩秋の庭に響きわたっておりました。

小森けい子様　新潟県新井市

お便り＆傑作写真大募集！

粗品進呈！どしどしご応募ください！

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送り先は、〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ広報室「フォトライフ四季ふれあい広場」係まで。お便りは、ファックス番号 045-476-0778でも受けつけております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構ですので、読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。（なお、応募作品の返却はいたしかねますのでご了承ください。）

※このコーナーに多数のご応募をいただき、ありがとうございました。今回はすべてのお便り・お写真をご紹介できませんでしたことをご了承ください。

映像と情報のワンダーランドへ
Canon

イクシを着よう。もっと。

あのイクシに、
小さく軽く価格もライトな
「310」が仲間入り。

持っているのを忘れて
しまいそうなほど、軽くてスリム。
イクシ「310」は、スタイリッシュな
カードサイズ・ボディに、きれいに写す機能を
パッケージしたAPS対応カメラです。
アクセサリーのように身につける。胸ポケットにも
スッキリおさまる。いつでもどこでも、
ライトなイクシで、思うぞんぶん写真を
遊んでください。

NEW

○重さ125g・薄さ23.5mmの超軽量コンパクトボディ○ブラック/シルバーから選べる高品位デザイン○優れた描写力の大口径26mmF2.8レンズ搭載○ワンタッチ装填や、プリントタイプ切り換えなどAPSならではの簡単・便利機能 ●1 グリップ部を除く ●2 35ミリ判カメラ換算で32.5mm

カードサイズカメラ
Canon
IXY 310
メーカー希望小売価格¥37,000
(ケース付き、税別)

カタログをお送りいたします。ご請求は、〒108-11 東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル キヤノン販売株式会社 IXY310係まで、ハガキでお気軽にお申し込みください。

キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社

OFFICIAL SPONSOR

キタムラ・インフォーメーション

フォトライフ四季がキタムラのインターネットのホームページでもご覧いただけるようになりました!

ご好評をいただいておりますカメラのキタムラのインターネット・ホームページに、今年から「フォトライフ四季」の内容が加わり、情報内容が一段と充実いたしました。今後「フォトライフ四季」の各号が発行される毎に最新号の内容を載せていく予定ですので、キタムラ各店で配布しております「フォトライフ四季」の最新号を手に入れ損なった場合などにご利用ください。また、前号の「フォトライフ四季Vol.23冬号」もホームページでご覧いただけます。

下記のアドレスをキーボードで打ち込み、キタムラのホームページをお開きください。表示されたトップ画面の中程にある「最新情報」欄の「フォトライフ四季」の右にある、「よむ」の部分をクリックしていただくと、ご覧いただけます。

内容は

①各号の特集にご登場いただいた写真家の先生方の作品とインタビュー記事
②現在連載中である「日常風景ウォッチング」の各号の先生方の作品とインタビュー記事
③「THEフォトワールド」にご登場いただいた写真家の先生方の作品とインタビュー記事
④「写真おもしろヒストリー」の記事内容
⑤「フォトライフステップアップレッスン」の記事内容

と、ほぼ「フォトライフ四季」の主要部分を網羅しています。

もちろん「ネッターニュース」「撮影・購入ガイド」など多彩な撮影情報や、「ネッターフォーラム」の楽しいおしゃべりは好評継続中。また写真家の先生やキタムラのお客様の個人ホームページにも豊富にリンクされておりますので、あなたも一度キタムラのホームページにお立ち寄りください。きっと素敵な写真仲間ができますよ。

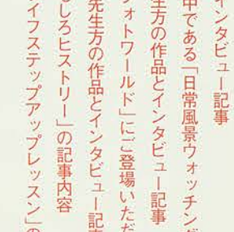
URL(インターネット・アドレス) http://www.kitamura.co.jp
メールアドレス info@kitamura.co.jp

編集後記

いよいよ今年も「全国春の花フォトコンテスト」の開催時期がやってきます。審査員の三好和義先生も、「毎回バリエーションに富んだ花々に出会えるので、見ていて楽しく選び甲斐もある」と楽しみにしておられますので、皆さんもキタムラ店頭のポスター・チラシをご覧になり、どしどしご応募ください。

さて、その三好先生には今号の特集ページにもご登場いただきましたが、お聞きしたところによるとその取材直前まで、先生は北極でオーロラを撮られていたとのこと。皆さんもご存じのように、オーロラというものはいつでも見られるわけではなく、三好先生も結局、延べ1ヶ月間も現地に滞在して待ち続けたそうです。その甲斐あって、非常に素晴らしい作品が撮れたそうですので、いずれ写真展などで発表されるのを楽しみに待ちたいものですね。

プレゼントが当たる! クロスワードパズル



〈ヨコのカギ〉
1. 便利な機械などを文明の○○なんて言います。
3. cmやmは「長さ」。gやkgは?
6. 生まれ故郷のことです。
7. 平たく切り出した木材。
8. ホワイトデーはキャンディー。バレンタインデーは?
11. 交通○○に気をつけて!
12. ファンは4月の開幕が楽しみです。

〈タテのカギ〉
1. 預金をすると後でついてくるもの。
2. 働いてもらえるお金のこと。
3. 日本家屋の収納スペースです。
4. 犯人捜しなどに使われる○○○○○○写真。
5. 料理の素材は新鮮な海の○○、山の○○。
8. ホテルでボーイさんにあげるお礼。
9. 今日の夜のこと。
10. 船や飛行機で海外へ行くこと。

答え=○○○○○○
(ヒント:赤、白、黄色と色彩も豊か。)

問 題:クロスワードに答えて、A~Fのマスの字をつなぐとある言葉になります。その答えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。

あて先:〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1
カメラのキタムラ「フォトライフ四季 クロスワードパズル」係

締め切り:5月31日(当日消印有効)

クロスワードパズル(Vol.22) 解答とご当選者 解答:「アカトンボ」

佐藤美江子(北海道)、吉田清隆(山形県)、船田郁美(山形県)、天野宗謙(宮城県)、斉藤武昭(新潟県)、窪田里江(長野県)、田中梅子(石川県)、澤田稔(石川県)、作間達也(静岡県)、村瀬中(静岡県)、白岩佐和子(静岡県)、種井武朗(愛知県)、信国康夫(三重県)、浜中明代(三重県)、川崎全敏(大阪府)、長森利子(岡山県)、西村和己(岡山県)、薄田敏(岡山県)、真田正之(広島県)、笹野文枝(香川県)、後藤田誠子(徳島県)、後藤治夫(徳島県)、沢村純一(高知県)、酒井不二城(福岡県)、今林兵馬(福岡県)、和田秋夫(福岡県)、江口弥生(佐賀県)、仲道徳人(大分県)、谷口昌広(宮崎県)、野原政子(沖縄県) 敬称略

フォトライフ 四季 Vol.24 SPRING
平成10年3月1日発行 季刊第24号
カメラのキタムラ発行
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1 ☎045-476-0777

FUJIFILM
I&I－Imaging & Information

ADVANCED PHOTO SYSTEM
24ミリフィルムシステム

このカードが、
カメラを変える。

世界最小3倍ズーム※、エピオン・カードマン、誕生。

EPION CARDMAN

一枚三役のマルチ・ファンクション・カード。

① 液晶パネルになる
撮影時にカードをカメラ後部に装着。
フィルムカウンター、撮影モード指標などを表示します。

② 多機能リモコンになる
離れた場所からもさまざまな操作が可能。
シャッターチャンスも思いのまま。

③ レンズ・プロテクターになる
ふだん持ち歩くときに、カードをカメラ前面に装着すれば、
大切なレンズやストロボなどをカバー。

●MRC（フィルム途中交換）機能搭載。
○1台のカメラで、一人一人が自分専用のフィルムで撮影できる。
○1台のカメラで、好きなテーマごとに撮り分けできる。

フィルム途中交換 途中で出して また撮れる

●自信の高画質、世界最小3倍ズーム※。
○スーパーEBCフジノン3倍ズーム※レンズ（21～58mm）搭載。
○富士フイルム独自のデジタルプログラム（DP）ズームストロボ採用。

●APSだから、簡単・楽しい・便利。
○インデックスプリントで写真の整理や焼き増しも簡単。
○フィルム装てんも途中交換も、簡単・確実・失敗なし。

EPION 3500 MRC
メーカー希望小売価格 56,000円（税別）
※21～58mm（2.8倍）を3倍ズームと称しています。※3倍ズーム比較（H9/11現在）

●セレクトタイトル。●プリント枚数指定。●赤目軽減モード。●日中ストロボモード。●ストロボOFFモード。●夜景ポートレート（スローシンクロ）モード。
●オール高品位アルミ合金ボディ。●大きさ・重さ 98.5×57.2×29mm（MFカードなし、但しグリップ部36mm）180g（電池別）。